

# 朝鮮民主主義人民共和国

朝鮮民主主義人民共和国

面積 12万0538 km<sup>2</sup>

人口 約1500万人 (1974年)

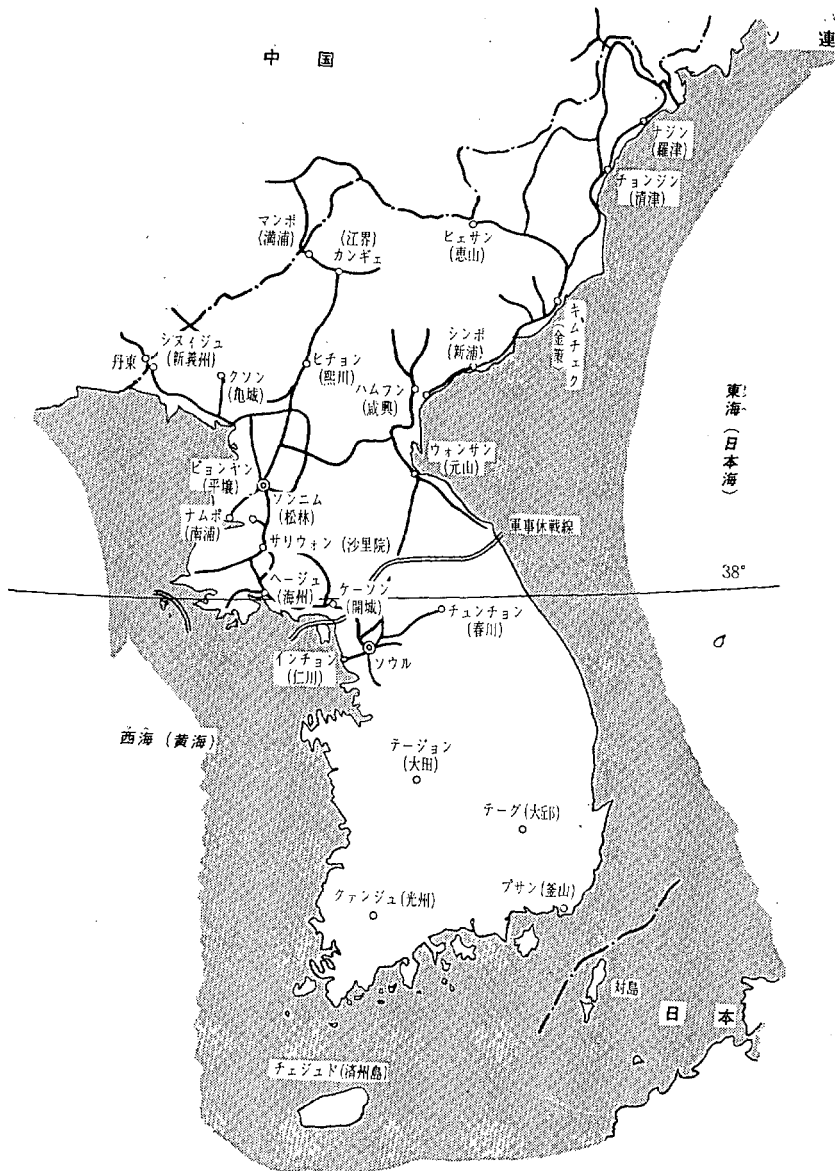
首都 ピョンヤン (平壤)

言語 朝鮮語

政体 社会主義共和制

元首 金日成 (共和国) 主席

通貨 ウォン (1米ドル=2.15ウォン, 1974年末現在)



# 1974年の北朝鮮

## —建設のための総動員体制—

### はじめに

1974年の朝鮮民主主義人民共和国は、一面で南朝鮮に対する徹底的な硬姿勢をとりつつ、国際的にその孤立化政策をおすすめ、他面では6カ年計画のくり上げ達成をめざす国内の総動員を展開した。その過程で、金日成主席に対する個人崇拜も、極限的な神格化にまで達した。そして、その後継者をめぐって党・政府首脳内部に微妙な勢力の消長が生じた。

### 国内政治

1974年の国内政治の中心課題は、6カ年計画のくり上げ達成をめざす総動員を徹底させるために、国民の思想・政治動員を極度に推進することであった。その思想・政治動員は金日成主席をほとんど神格化するまでにいたり、主席への絶対的・無条件的忠誠を要求し、全社会を主体思想一色に統一するという形をとったのである。この動向にからんで、党、政府の指導者内部に、ある種の消極的抵抗やそれに伴う地位、序列の変動もおこったものと推測されているが、完全には確認されていない。

6カ年計画のくり上げ達成をめざして全力を傾注していこうとする方向は、金主席の「新年の辞」にもすでに指示されていたが、それを明確に方針化したものは、2月11～13日に開催された朝鮮労働党中央委員会第5期第8回総会であった。この総会は金日成総秘書の司会によって行なわれ、「すべての力を社会主義大建設事業に総動員することについて」「税金を完全に廃止し工業商品価格を大幅に引下げることについて」という2議案を審議した。その第1議案は、金日成総秘書が報告し、その結果は「全党員への手紙」として要

約採択された。この「手紙」を見ると、(1)「次の展望計画年度の10大建設目標」という形で、6カ年計画以後の課題までかかげたこと、(2)基本建設戦線を第一次的な重点目標として指示したこと、(3)建設方式として「速度戦」「せん滅戦」「電撃戦」等の概念をもちこんだこと、(4)これらを保障するために「首領の親衛隊、決死隊の榮譽をいっそう輝かし」、「チュチュ（主体）思想の要求どおりに考え行動する真の共産主義者になる」ことなどといった精神態度がきびしく要求されていること、などが特徴となっている。

この「手紙」は一種の進軍ラッパの役割を果たしたもので、これ以降、はげしい動員が全面的に展開されていくこととなる。

また第2議案は、このような動員を支えるもうひとつの側面、すなわち大衆に対する物質的刺激として税金撤廃、物価引下げの措置をとることを意味した。だが税金撤廃はすでに収収が予算の2%にも満たない少額にすぎず、社会のごく僅かの成員にしか影響のないものであるため、実質的な面ではさしたる効果をもたない。また、物価引下げも、全消費物資が切符配給制をとっているため、現実生活の改善にどれほどの効果をもちうるか疑わしい。したがってこれも、最大限に首領と国家の恩恵的措置であることを強調して見返りとしての忠誠を要求し、さらには韓国の経済条件（重税、物価騰貴）と対比することによって、韓国内大衆への政治的影響力を強め、北側の「楽園」ぶりをたたえるという、きわめて政治的、宣伝的な措置としてとられたものと見なされる。

ともあれ、この中央委総会后、全国工業大会（2月25日～3月7日）がひらかれ、また全宣伝機関、行政機関、指導機関が、あげてこの「総動員」政策にとり組んだわけである。これが経済建設の面でどういう効果を及ぼしたかは、別項で検討を加えることとするが、政治・思想面では、もっぱ

ら中央委総会に示された「恩恵—忠誠」の図式がいっそう極端にエスカレートして行くという経過をたどる。

恩恵の極大化は、金主席がついには国民の「政治的生命」の付与者であるという理論となつてあらわれた。3月20日付の「労働新聞」社説は、この理論をはじめて全面的に展開した。この理論は、人間にとって肉体的生命より社会政治的生命のほうが貴重であるという前提からはじまって、「わが人民が歴史上どの世代も、誰ももつことのできなかつたもっとも価値あり、美しく、もっとも高尚な政治的生命を堅持できるのは全的に敬愛する金日成同志を偉大な首領に高くいただいて暮らし、革命を行っているからである」と規定し、つづいて、この「偉大な首領に自身の運命を全的に依託してすべてをささげ、首領のためとあらば命もためらいなく捧げることが、すなわち首領のふところで政治的生命を得、革命闘士に成長したわが人民が当然もつべき崇高な風格である」という結論をひき出す。また、こうして「首領がいだかせた政治生命」を維持するためには、「全社会を首領の革命思想で一色化し、唯一のチュチュエ型の血でわきたつようにし、チュチュエ思想をすべての闘争と生活の唯一の指針と見なし、ひたすら首領の思想、意見どおりに考え行動する革命的気風が、全党、全社会にみちあふれるようにしなければならない」とするのである。

この社説に定式化された理論は、その後も「絶対性、無条件性」の精神という形でとらえられ、さまざまなバリエーションをもつてくりかえし敷衍されてゆく。と同時に、この首領の思想が、従来の朝鮮独自の優れた理論という見方を超えて、世界的、人類史的にもっともすぐれたものだという定式化がなされて行く。このような理論構成は、まず「労働新聞」のレーニン生誕104周年論説(4月22日)、マルクス生誕156周年論説(5月4日)に試みられた。これは、マルクスやレーニンの功績を認めながらも、現在は人類史の新しい発展段階である「チュチュエの時代」に入ったとし、その時代の要求をみたます最高の思想体系として金日成の創始した「チュチュエ思想」を最大限に礼讃している。

このように、金日成思想を絶対化する傾向は、

とくに統一革命党、在日朝鮮総連などいわゆる在外団体によって最も極端な「金日成主義」という用語で表現され、それが暗黙の承認を受けた形となっている。たとえば4月15日の日付けをもつ統一革命党中央委員会の「不出世の英雄であり、救世済民の太陽である革命の偉大な首領金日成同志にささげる祝賀文」(金日成誕生62周年)は、「救世済民の太陽である金日成同志は、困難かつ複雑な朝鮮革命をひたすら勝利の一路へと導いてきたばかりでなく、帝国主義が最終的に滅亡し社会主義、共産主義が世界的規模で勝利する現時代のもっとも科学的な世界革命理論と戦略戦術を示し、その実現を力強く導いています。こんにち偉大な首領が朝鮮革命と世界革命の陣頭に立っているがゆえに地球上のすべての大陸で偉大なチュチュエ思想の革命的旗じるしが力強くひるがえり、搾取と抑圧のあるすべてのところで怒号する革命の激浪が起っており、アメリカ帝国主義を頭目とする帝国主義者と歴史の反動どもが最終的崩壊の奈落に深くおちこんでいます」といい、「不出世の英雄であり、思想理論の大家である首領は、朝鮮革命と世界革命を導いてきたその過程で、自然と社会にたいする認識と変革の科学的立場と方法、革命と建設で提起されるすべての問題解決のもっとも完ぺきな思想理論と戦略戦術、大衆指導のもっとも洗練された体系と方法および作風である偉大な金日成主義を全一的に体系化し完成することにより、人類思想史にもっとも輝かしい金字塔を築きあげました」「じつに、父なる首領が歩んできた62星霜は、永久不滅のチュチュエ思想を真髄とした偉大な金日成主義の創始とその輝かしい勝利の道のりであり、人類史上もっとも光輝さん然たる金日成時代の創造とそのつきない繁栄の歴史であり、革命の青史を金文字できざんだ子孫万代とわに輝く金星の年代記です」とたからかにうたいあげている。なお、この祝賀文には「祖国統一の唯一の求心点である首領をいただいて革命を行うことを最大の仕合わせに、このうえない大きな栄光と思っているわたしたち」「わたしたちは、何よりもまず、全党を金日成主義化することを本然の使命とみなし、生きてもただ首領のために、死してもただ首領のためにたたかう不撓不屈の革命闘士としてしっかり準備するでしょうし、地球上に人類

が存在する限り子孫万代不滅の金日成主義の偉業にあくまで忠実でありましょう」などの表現が見出される。

また金主席を「伝説的英雄」として確定しようとする努力がはらわれた。「労働新聞」が8月27日にかかげた「偉大な首領金日成同志はわが民族の伝説的な英雄である」という社説がその代表的なものである。これは、金主席の活動以前から民族内部に行なわれた「キムイルソン（金一星、金一成、金日星など）伝説」がすべて金主席に関するものであるように多大の苦心をはらった論理を展開している。この社説はあらゆる「キムイルソン伝説」を総動員して金主席を礼讃し、「伝説的な英雄である偉大な首領をいただいた民族的自負心と誇り」を強調している。これ以後、金主席の公式肩書用語として「伝説的な英雄」という形容詞がひんばんに用いられ始めた。

こういう伝説化、神格化が一方で進められるとともに、金主席の「革命思想」と「チュチェ思想」の関係が、神学的に練り上げられ、「全社会のチュチェ思想による一色化」が党員の至上の任務とされるにいたる。

その神学的理論は、(1)現代が先行時代と区別される人類史的に新しいチュチェ時代である、(2)チュチェ思想はチュチェ時代の要求を反映したのもっともすぐれた思想である、(3)金日成思想は、チュチェの思想、理論、方法を統一した科学的、革命的な全一体系であり、先行の革命思想と区別される、という論法によってなり立っており、この論法からすれば、金主席は現代世界最高の思想家であることとなる。（「労働新聞」7月29日付編集局論説「偉大な首領金日成同志の革命思想はわれわれの時代の要求を反映して生まれた新たな創造的思想」などがその代表例）

そしてこのような思想はついに「人類史上もっとも高い段階をなす金日成主義」「われわれの時代と人類の永遠の未来を代表する金日成主義」「永久不滅の金日成主義」などと定式化されるにいたった（9月9日共和国創建26周年祝宴における在日朝鮮人祝賀団団長の演説）

この年は、例年と異なり最高人民会議が2回にわたって開催された。

第5期第3回会議（3月20日～25日）

議題——(1)税金制度の完全廃止、(2)アメリカと平和条約を結ぶ提案。

第5期第4回会議（11月27日～30日）

議題——(1)「社会主義農村テーゼ」10年の総括と今後の課題、(2)共和国副主席選出。

幹部人事の異動について具体的に公表されたのは、金英柱党組織部長の政務院副総理への就任（2月15日）、と金東奎党政治委員・秘書の共和国副主席への就任（11月30日）の2件のみである。しかし、年間を通じての公開会合における報告者、公式会議・儀式における序列、対外的活動などを検討すると党・政府首脳の中に、きわめて微妙な地位、序列の変動が起こったことがうかがわれる。明らかに影がうすくなりほとんど公的活動の場に現われなかったり、序列が下降したものとしては、崔庸健、崔賢、金一、許淡などがあり、逆に上昇ないし活発に活動したものとしては、金東奎、吳振宇、徐哲、李根模、楊亨燮、延亨黙、李勇武、崔載羽、鄭準基、柳章植、金英男などがあげられよう。金英柱の場合はきわめて微妙で、党組織部長から政務院副総理への移行は一種の格下げとも見られるが、また金日成主席特使としてアラブに赴いたり、外国代表団の歓迎等にはしばしば登場し、序列も一定して高い。ただし公式演説・報告のたぐいは一切ない。このような動向から、金日成主席後継者として金主席子息の金正一党秘書室長が指名されたことをめぐる暗闘があったものとの推測もなされるにいたった。それが旧幹部の没落と新若手幹部の台頭を招いたというのである。

だが、より基本的には、年初からの異様に緊張した総動員体制への転換、6カ年計画の大幅変更、金日成思想への一元的統制といった“革命の変動”にたいして、ついていけない幹部とひたすら前進する幹部との差が、はっきりしてきたことを意味するものではないかと考えられる。そのため現実的には、古い革命経験を積んだ指導者はしだいにとりこされ、新しい金日成思想に盲目的に忠実な若手幹部が上昇してきたものではないかとも見られる。これはまた、全社会的な世代交替を象徴するものであろう。

## 経済建設

6カ年計画の第4年目を迎えて、基本建設に力を注ぐべきことは金主席の「新年の辞」にも示されていたが、2月の朝鮮労働党中央委第5期第8回総会は、その方針をさらに明確にし、「すべての力を社会主義大建設事業に総動員する」ことを全党に訴えた。この中委総で採択された「全党員への手紙」は、朝鮮労働党創立30周年記念日(1975年10月10日)までに6カ年計画を完遂し、次の展望計画年度に予定される下記10大建設目標高地を占領する基礎をきずかなければならないとした。

- (1) 1200万トンの鋼鉄生産高地
- (2) 100万トンの非鉄金属生産高地
- (3) 1億トンの石炭生産高地
- (4) 500億 KWH の電力生産高地
- (5) 3000万トンのセメント生産高地
- (6) 500万トンの機械加工品生産高地
- (7) 500万トンの水産物生産高地
- (8) 500万トンの化学肥料生産高地
- (9) 10万町歩の干潟地開墾高地
- (10) 1000万トンの穀物生産高地

さらにこの手紙は、「当面して力を集中して支援すべき戦線」として基本建設戦線、工業戦線、農業戦線、輸送戦線、水産戦線の5つの戦線をあげ、なかでも「第1次的に力を入れなければならない戦線」として基本建設戦線を指示した。その主要課題は次のとおり。

- (1) 金策製鉄所拡張工事、大同江製鉄所建設、茂山鉾山改造拡張工事をはじめとする鉄鋼業基地の建設。
- (2) 北倉火力発電所第2段階工事、西頭水発電所第2段階工事、大同江発電所、青川江発電所建設をはじめとする動力基地の建設。
- (3) 青年化学工場と南浦化学工場の建設をはじめとする大規模化学工場の建設。
- (4) 順川セメント工場、チョンネ地区の新大規模セメント工場をはじめとする建材工業基地の建設。

このような建設に力を集中し、「せん滅戦」「電撃戦」の方法で行なうこと、「全党、全国、全人民が基本建設戦線を支持しよう」と呼びかけたこ

とが重要である。このような方針は、既成生産設備の最大限活用を最重点とし、新規建設をむしろ抑制しようとした6カ年計画の当初方針からすれば、きわめて大きな変更であり転換である。さらに、上記の建設目標も、6カ年計画当初の10大建設目標とくらべると、個別建設から「基地建設」へと変化しているばかりでなく、新たに西海岸地帯(たとえば大同江製鉄所、大同江発電所、南浦化学工場など)に大規模なコンビナート型基地建設課題を設定したという点で、大きな計画変更がみられる。そして、これらの全戦線における基本方式を「速度戦」と規定し、これによって「大進軍運動の前進速度を最大限に高めなければならない」とした。この課題を達成するためには「偉大な首領を唯一中心にして党の統一と団結をさらに強化しなければならない」という思想態度が強く要請された。

これらの方針は要するに、6カ年計画を達成するためにはこの時点で、新しいチョンリマの大昂揚を起こさなければならないという認識によるものであった。これまでのくり上げ達成運動がすべて不成績に終わった経験にかんがみても、より強烈な目標を設定したくり上げ達成運動を精力的に進めない限り6カ年計画の達成はおぼつかなくなつたものとみられる。同時に、これは南の経済不振状態の時期に、一足早く経済建設を促進することによって経済面でも南に対して優位に立ち、統一のヘゲモニーを握ろうとする強い要請から出たものと思われる。

こうした課題を実行するために2月25日～3月7日に大規模な全国工業大会がひらかれて、個別課題にいたる建設方針を定めた。この大会冒頭における延亨黙報告は、はじめて73年の工業生産が前年比19%増という高いテンポで成長したことを明らかにした。

この成果は、3月の最高人民会議における財政報告(金敬連財政部長)によってさらに具体的に明らかにされた。1年間に工業生産が19%伸びただけでなく、「1973年にわが国工業生産は1970年に比して1.6倍に増大し、この期間に毎年平均17%ずつ成長しました」というのである。1971年、72年の工業生産成長率は、これまで発表されておらず、また財政報告その他の報告中にみられた各種

第1表 財政規模の推移

(単位 万ウォン)

年 次	予 算 額 (歳出入同額)	対 前 年 増加率(%)	決 算 額			
			歳 入 額	対 前 年 増加率(%)	歳 出 額	対 前 年 増加率(%)
1970 (同換算値)	618,662	11.6	623,200 (534,200)	17.2	600,269 (508,070)	18.9
1971 (同換算値)	727,727 (617,220)	17.6	635,735	2.0 (19.0)	630,168	5.0 (24.0)
1972 (同換算値)	737,480	1.3 (19.5)	743,030	16.9	738,861	17.2
1973	854,351	15.8	859,931	15.7	831,391	12.5
1974	980,121	14.7				

(出所) 各年「財政報告」

(備考) 換算値とは1972年「財政報告」において、1971年度決算以降物価変動を理由とする再計算措置がとられたことによる。

経済建設数字には、ビナロン、塩化ビニール、工作機械をのぞいて、好成績のものは見当らない(本年報、1973年、74年版参照)ので、今回のこの報告は意表をつくものである。この謎をとくひとつのかぎは、財政規模の推移であろう。共和国国家財政の特徴は、その収入の約98%が社会主義経営収入によって占められている点にあるが、そのため歳入額の推移はかなり正確に経済活動の消長をしめしていると考えられるからである。第1表に見るように1970年代に入ってから財政の推移は、1971年度決算から異例の「再計算措置」がとられたことによって、その連続性が断ち切られている。しかしこのこと自体が、きわめて不明朗であって、1971年度の財政実態に公表しがたいものがあつたのを再計算操作によって辻褃を合わせたものように推察される。とくに1970年は7カ年計画の延長最終年度にあつたため、31%という極端に高い工業生産成長率をかかげることによって最終的な目標が達成されたこととしたのであつたが、そのことがかえって全体の経済計算に混乱を惹起して調整を余儀なくされたものとも推察されるし、また31%という成長を一時に強行したために翌1971年度に成長率の反動的落ちこみが起り、これが財政上に反映したものとも考えられる。いずれにせよ71年度に何か公表をばかせる事態が生じて財政上に大幅な再計算が行なわれ、それによって71~72年の経済計算を正確に遂行・公表することが不可能になったのではないか。そこで、1974年にいたり初めて71~73年の成長率を大まかな平均数字をあげて説明することとなった

第2表 1973年の建設実績(完了分のみ)

ヨソユ鉱山選鉱場など多数の選鉱場  
西部地区の大規模鉄鉱山(複数)(開発)  
各地の有望炭鉱(開発)  
各地の燐灰石鉱山——豊年、谷山、テテリ、トンアム、新豊など  
黄海製鉄連合企業所第1号熔鉱炉改造・拡張工事選元団鉱職場  
クムソン・トラクター工場  
重油加工基地(創設)  
産業テレビと無線通話による生産指導体系——黄海製鉄連合企業所、降仙製鋼連合企業所、セメント工場  
各地燐肥料工場——海州、南浦、文坪地区をふくむほとんどすべての道  
信川—殷栗間鉄道工事(220里)  
清津—羅津間鉄道電化  
鴨緑江かんがい工事

(出所) 1974年「財政報告」

のではないかと思われる。したがって同時に、今回の公表数字が、どの程度に実態を反映しているものかということも、確認することができない。

74年度財政報告で、生産実績数字としてあげられたものは、ビナロン織物1.7倍(目標なし)、セーター・ジャケット1.5倍(目標2.1倍)、皮靴1.8倍(目標1.9倍)、肉類加工品1.4倍(目標なし)、果実加工品1.4倍(目標なし)、漁獲高1.2倍(目標なし)、貨車1.4倍(目標1.4倍)の7項目にすぎず、前年にかかげられた目標24項目(「動向年報」1974年版88ページ参照)に比していちじるしく少ないし、その範囲

も貨車をのぞいて消費物資にのみ限られているので、ほとんど実勢を把握することができない。他の部門で建設完了が報告されているものは、第2表のとおりであるが、これも1973年「財政報告」による建設実績（「動向年報」1974年版89ページ参照）に比してきわめて貧弱である。

なお財政投資の部門別実績をみると、基本建設部門対前年比130%（目標140%）、工業部門170%（目標170%）、農業部門150%（目標なし）、社会文化施策費112%（目標120%）、教育事業114%（目標120%）、保健事業115%（目標なし）6部門があげられており、軽工業と農業に投資重点がおかれたことをしめしている。このため、とくに農業ではかつてない豊作をおさめたとされ、耕地面積100町歩あたりトラクター台数は2～2.5台、平野地帯で3～4台に達し、化学肥料は町歩あたり物動量で1トン以上、成分量では200キログラムずつ施肥する物質的土合がととのえられたとされている。

国防部門について見ると、予算財政規模中15.0%（12億8153万ウォン）に対し決算15.4%（12億8034万ウォン）であり、74年予算としては16.0%（15億6819万ウォン）が計上され、国防費は少しずつ上昇傾向を示している。

1974年予算は総額規模で前年予算より14.7%（対決算比歳入14%、歳出18%増）上まわる98億121万円であるが、その投資重点として明らかにされたのは下記第3表のようにかぎられている。

またこのような投資目標に関連して、数字的にかけられた生産目標は第4表のとおりである。（なお今回は紙幅が制限されているため暦年の総括対比表は省略したので前年度年報を参照されたい）

第3表 1974年予算における財政投資（対前年比 %）

基本建設部門	150
工業部門	160
採取工業	160
金属工業	250
化学工業	190
軽工業	150
農業部門	170
社会文化施策費	116
教育部門	114
住宅建設	180

（出所）1974年「財政報告」

第4表 1974年予算報告にあらわれた生産目標

品目	目標	品目	目標
化学肥料	1.7倍	綿織物	1.3倍
磷肥料	2.8倍	テレビ受像機	2.1倍
トラクター	2.3倍	ミシン	1.3倍
自動車	1.4倍	電気釜	1.9倍
鉄道車両	1.8倍	砂糖	1.6倍

（出所）1974年「財政報告」

以上の目標数字は10品目についてかけられているにすぎず、例年20品目以上であったのに対していちじるしく少ない。その代わりに、今年度は具体的な建設目標が多数列挙されているので、それを一覧表としてかかげておく（第5表）。

第5表 1974年予算報告における建設目標

採取工業（鉄鉱）	茂山鉱山拡張工事 徳城、西海里等有望鉄鉱山開発 （炭鉄）成興、徳徳、成川、11月8日等有望 鉱山の改造、拡張 （非鉄鉄）端川地区、恵山地区の鉱山開発
電力工業（火力）	北倉火力発電所第2段階工事年内完工 青川江火力発電所建設推進 （水力）西頭水力発電所第2段階工事建設推進 大同江発電所建設推進
金属工業（鉄鋼）	金策製鉄所拡張工事（鋼鉄職場、熱間 圧延職場、大規模熔鉄炉、連続式焼 結炉、コークス炉）の建設終了 茂山—清津間精鉄輸送管工事（250里） 年内建設終了 4月13日製鉄所拡張工事促進 城津製鋼所拡張工事促進 大同江製鉄所新規建設強力推進 （非鉄）南浦精錬所拡張 海州精錬所 “ 文坪精錬所 “ 端川地区大規模非金属冶金基地新規建 設
化学工業（肥料）	現存化学肥料工場整備拡張 各地方磷肥料生産基地配備 （化繊）2.8ピナロン連合企業所 改造拡張 新義州化学繊維工場 “ 清津化学繊維工場 “
（合成樹脂）	青年化学工場（アニロン、テトロン、 ポリエステル）建設最大限促進 南浦化学工場（塩化ビニール、ピナロ

ン) 新規建設最大限促進

建材工業(セメント)	現存セメント工場改造拡張 順川セメント工場新規建設推進
機械工業	建設中の原動機工場, 電線工場, ベアリ ング工場, 連結農機工場完工 現存機械工場に多数職場増設
軽工業(繊維)	平壤総合紡織工場 新現代的設備設置 9月紡織工場 " " 咸興毛紡織工場 " "
(衣類)	ピョンソン靴下, ズボン工場建設年内 完了
(はき物)	海州塩化ビニールはき物工場 " " 咸興擬革靴工場 " "
(食料)	ブンチョン果実加工工場 " " 各道・市・郡穀物工場建設促進
(その他)	腕時計工場, 人造皮革工場など建設推 進 地方産業工場(食料, 衣服, 家具, 日 用品) よりよく配備
農 業	トラクター台数を7~8万台に達する ようにする 化学肥料耕地町歩あたり施肥料1トン 以上水準にひきあげる
輸送部門	平壤-沙里院間鉄道電化完了 北青-徳城間) 鉄道工事(200余里)推進 八院-球場間) レール800余里区間 重量レールにと りかえ

(出所) 1974年「財政報告」

その後経済建設を促進するために, 6月から金日成主席自身の現地指導が精力的に行なわれた。

6月6日~12日	咸鏡南道の党組織と人民 経済各部門を指導
6月13日~22日	咸鏡北道の活動, 同道党 委員会拡大会議を指導
10月29日~11月8日	慈江道の事業, 同道党委 員会拡大会議を指導
11月12日	平安南道農業部門活動家 会議を指導

工業建設面で年末までに判明した成果は第6表のとおりである。

第6表 1974年中に建設された主要工業施設

金策製鉄所	鉄鋼職場, 連続式焼粘炉, 大型熔鉱炉
咸川製鋼所	新型炉

降仙製鋼連合企業所	新型炉
雄基火力発電所	建設完成, 発電開始
北倉火力発電所	3基の新発電機操業開始
順川石灰窒素肥料工場	石灰炉, 回転窒化炉, 窒素 分離器
南浦製錬所	4 硫酸職場, 焼成炉
海州製錬所	2 硫酸, 3 硫酸職場, 肥料職場, 貯鉱場, 焙成炉
2.8セメント工場(沙里院)	大型焼結炉
2.8ピナロン連合企業所	改築・拡張工事
新義州化学繊維工場	" "
勝利化学工場	完成
青年化学工場	建設成功裏に進捗
平壤総合紡績工場	化学繊維紡績連合職場
沙里院紡績工場	操業開始
サドン子供服折物工場	" "
各道に近代的穀物工場, 塩化ビニール袋職場, 調味 料工場, 皮革加工工場, アルミニウム工場, 塩化 ビニール靴工場, ガラス瓶工場など軽工業工場	

(出所) 「朝鮮通信」報道より総合

また, 工業関係の成果としては, リョンソン機械工場(咸興)で12万立方メートル高圧遠心圧縮機を3カ月足らずで製作し(9月4日), 清津造船所で1万4000トン級大型貨物船ワンジェサン号が進水し(10月6日)たところが報道された。一般的土木建設の面では, 4月に祖国解放戦争勝利記念館と人民文化宮殿が, 10月に「チュチェ時代の大記念碑的創造物」ヨントン貯水池(黄海北道, 2万余町歩の灌漑と工業用水供給)が竣工した。

だが, 74年最大のハイライトは, 「農村テーゼ」発表10周年にさいして, 昨年にひきつづく「かつてない」農村大豊作にめぐまれたところである。このため, 11月27日~30日に本年2回目の最高人民会議(第5期第4回)が開催され, 「金日成主席が発表した『わが国における社会主義農村問題にかんするテーゼ』の実行総括とこんごの課題について」(金一総理報告)が討議され, 「『農村テーゼ』が示した課題を短時日内に完全に実現するために」という決定が採択された。この会議で示された農業面での成果と課題は下記第7, 8表のとおりである。

第7表 1974年における農業面の成果

穀物生産総量	700万トン以上
	町歩あたり平均収穫高, 米5トン900



	キロ, とうもろこし5トン
他の容産物	野菜(10年間)2倍
	果実( " )3倍
	肉 (10年間)2.5倍
	タマゴ( " )7.4倍
	まゆ( " )2.4倍
農業機械化	
トラクター	7万~8万台を供給 (10年間)4倍以上に増加 100町歩当り台数
	平野地帯 4台
	中間・山間地帯 3台
自動車	(10年間)4・6倍
田植機, 収穫機, 脱穀機等新農業機械,	考案製作
農村電化	全里, 全農家
農業化学化	町歩当り化学肥料施肥量500キログラム
	化学肥料質的構成 いちじるしく改善
	農薬 撒布量増加
	除草剤 大量供給
技術者・専門家	各協同農場平均24人
医療	農村診療所の病院化完遂, 全里に児童 病棟, 郡病院完備, 産院施設強化
バス	農村里の85%に普及
水道	郡所在地, 大部分の農村部落・農家に 普及
託児所, 幼稚園	すべての子供を養育
農村婦人	産前・産後給休休暇実現
住宅建設	文化住宅普及
情報化	新聞, 雑誌, 図書の増加
	有線放送完成
	テレビ化促進
国家援助	基本建設投資の21.1%を投資
	脱穀場 1万5900余棟
	倉庫 1万6000余棟
	乾燥場 1万4000余棟
	とうもろこし倉庫 2万2000余棟
	畜舎 1万5900余棟
	農村文化住宅 56万余世帯
	託児所, 幼稚園, クラブ, 病院 多数
地方産業工場	各郡平均 20余
農民生活	農家1戸当り平均穀物分配高 (10年間)2.4倍 現金分配高( " )2.7倍

(出所) 最高人民会議第5期第4回会議決定。

第8表 農村建設の課題

農村技術革命	
機械化(総合的機械化, 化学化1980年完成)	
トラクター	1~2年内100町歩当り6~7台 1980年 " 10~12台
自動車	数年間 " 1台以上
田植機, 収穫機, 脱穀機等増産供給	全農作業を完全機械化
土地整理事業	大々の展開
化学化(3要素肥料, 微量元素肥料, 各種農薬, 除草剤生産を決定的に増大)	
進行中の肥料工場建設	来年中に完工
カリ肥料	自給
リン肥料, 各種微量元素肥料増産供給	
化学肥料施肥量	来年100町歩当り1トン以上 近年中 " 2トン以上
各種除草剤, 殺虫剤, 増産供給	
成長促進剤, 微量添加剤工業発展促進	
生物学的研究事業	米, とうもろこし, 大豆はじめ農作物の品種改良
	土地改良
	チュチュエ農法適用
	全部門の集約化水準向上
土地獲得	海面干拓近年中10万~20万町歩
	穀物 数年内100万トン生産
農村文化革命	全農業勤労者 中学卒業以上の一般 知識と一つ以上の技術体得
	技術者・専門家 大々の育成, 派遣
	農村文化住宅 多量建設
	農村水道化) 1~2年内終了 バス化)
	農村テレビ化 促進

(出所) 最高人民会議第5期第4回会議決定

対外関係

この年もきわめて活発な外交活動を展開し、とくにいわゆる「第三世界」(アジア, アフリカ, ラテンアメリカ)および非同盟諸国(アルジェリア, ユーゴスラビア, インド等)とさかんな交流を行なった。新たに多数の国ぐにと外交関係を樹立し、また国際機関への加盟を実現した。これによって、年末の第29回国連総会において「南朝鮮からの外国軍隊撤退」案はかなり多数の支持を獲得したが、き

わどい差で採択されなかった。

対米・対日関係においては、一面で絶えずアメリカ帝国主義と日本軍国主義に対して、はげしい非難、糾弾をつみ重ねつつ、他面では「アメリカ議会への手紙」を発して直接交渉を提案し、日本から多数の各界代表団、個人を招待し、また大量の在日朝鮮人祖国訪問団を迎え入れてその活動方針を指示するなど積極的な接近策をこころみた。

南北統一問題においては、徹底的に朴政権を憎悪し、糾弾し、忌避する態度を明確にし、内外に朴政権打倒運動をはげしく展開した。そのため、前年にひきつづき韓国との関係はきわめて険悪化

し、軍事緊張状態が徐々にエスカレートしつつある。そのため前年末からふたたび軍備増強に向かわざるをえなくなり、その側面からソ連への接近が前年にひきつづき展開された。中国との関係は、公式には依然として最優位におかれてはいるが、軍関係をはじめとしてやや冷却の気配を見せている。ただ「第三世界」との友好を最前面に押し出すところによって、中国の「第三世界」論とリンクする努力を続けたことが注目される。

※今年も、紙幅がゆるされないので詳細を日誌にゆずった。

## 重要日誌

### 1月

1日 ▶金日成主席「新年の辞」——前年を「勝利の年」としてたたえ、とくにトラクター生産、農業生産、全般的10年制高等中学義務教育、軍戦闘力などの前進を指摘したのち、本年度を6カ年計画くりあげ完遂のためにたたかかねばならない年であると強調、「いま一度社会主義建設で新たな革命的な高揚をおこす」ことをよびかける。

3日 ▶楊亨燮党政治委員、訪朝中の中朝友好協会代表団(団長楊春甫党中央委員)と会見。

4日 ▶全国農業大会、平壤体育館に1万6000人を結集して開幕(～1月10日)。徐寛熙農業委員会委員長の報告行なわれる。

▶人民武力部代表団(団長張正桓中將)ザンジバル革命10周年記念行事に参加のためタンザニアへ出発(～2月5日ウガンダ、エジプトを経て帰国)。

▶姚依林中国対外貿易部第1副部長来朝。

5日 ▶朝鮮・中国間1974年度商品交流議定書調印(於平壤)。

6日 ▶金主席、第13、14次在日朝祖国訪問団と会見、金仲麟党政治委員ら同席。

8日 ▶政府通商代表団(団長・朴ギョン貿易部副部長)ハンガリーへ出発(～1月22日帰国)。

10日 ▶全国農業大会最終第6日目——閉幕にあたり金主席「社会主義農村建設でおさめた偉大な成果を強化発展させよう」と題する綱領的演説を行なう。大会は「敬愛する首領金日成同志にささげる誓いの手紙」を満場一致採択した。

▶朝鮮中央通信、韓国朴政府の緊急措置を糾弾して声明。

▶軍事停戦委第421回秘書長会議ひらく。

11日 ▶朝鮮駐在コンゴ人民共和国新任特命全権大使ディオドンネ・イトウア平壤着。

14日 ▶労農赤衛隊創建15周年中央記念講演会、平壤万寿台議事堂で開催(全国各地でも)。

15日 ▶朝鮮駐在デンマーク新任大使ポルムフェルダン平壤着。

▶アルバニア通商代表団(団長、リベテル・コスタ副財政相)平壤着。

▶人民軍歩兵、軍事境界線で韓国武装スパイ、リ・グ

ァンソンを逮捕。

16日 ▶朝鮮・ハンガリー1974年商品相互供給および支払協定調印(於ブタペスト)。

17日 ▶祖国平和統一委、在北平和統一促進協議会は同協議会会長朴烈逝去について訃告発表。

18日 ▶朝鮮・ソ連間漁業分野の協力に関する協定調印(於モスクワ)。

▶「労働新聞」論評、日本田中首相の東南アジア訪問を非難。

▶「労働新聞」論評、韓日大陸棚は協定について、韓国が共同開発の名のもとに大陸棚を日本軍国主義者に売り渡すものと非難。

19日 ▶「労働新聞」論評、日本田中首相の東南アジア5カ国訪問は「時代錯誤的な侵略行脚」であった。

▶柳章植南北調節委副委員長、21日予定されていた第3回副委員長会談の延期を提議。

21日 ▶朝鮮・アルバニア間1974年度商品相互供給・支払協定調印(於平壤)。

22日 ▶「労働新聞」論説、南ベトナム政府の西沙群島侵犯を非難。

23日 ▶外交部スポークスマン、南ベトナム政府の西沙・南沙群島砲撃を糾弾した中国外交部声明を支持する声明を発表。

▶朝鮮駐在ブルンジ新任特命全権大使シブラ平壤着。

▶「労働新聞」論説、日本軍国主義の東南アジアに対する経済侵略を非難。

26日 ▶「労働新聞」社説、韓国朴大統領の年頭記者会見(1月8日)における「不可侵条約」提案を糾弾——「アメリカ帝国主義侵略軍を南朝鮮にそのまま駐屯させ、南北間に何か『約束』でもすれば『平和を定着』させられるかのように云々することは、アメリカ帝国主義侵略軍の南朝鮮占領を合理化し分裂を固着させようとする手管以外の何ものでもない」

29日 ▶朝鮮・ガボン間に外交関係を結び外交代表部を交換する共同コミュニケ発表(於リーブルビル)。

▶最高人民会議代表団(団長、黄長燁最高人民会議常設会議議長)クウェートへ出発(レバノン経由2月26日)。

▶「労働新聞」論評、日本田中首相の国会発言(1月24日)を「朝鮮人民に対する許し難い愚弄・冒とく」とであると糾弾。

▶社労青創立28周年、「金日成青年栄誉賞」授与式行なわれる(於平壤学生少年宮殿)。

30日 ▶朝鮮・リビア間大使級関係樹立(於ダマスカス)

▶「民主朝鮮」論評、日本田中首相の国会発言を「鉄面皮な日本帝国主義の植民地統治美化」と糾弾。

▶外務部、パリ協定調印1周年にさいし、協定を破壊し、じゅうりんしているアメリカ帝国主義とその手先の犯罪的策動を糾弾する声明発表。

▶アメリカのSR-71 高速度高空偵察機、軍事境界線上空に侵入(同機によるスパイ行動は新年に入り9回目と2月1日の朝鮮中央通信報道)。

▶南北調節委副委員長第3回目接触(於板門店)。

31日 ▶「労働新聞」論評、韓日間に締結(30日)された大陸棚協定は「犯罪的」かつ「侵略的」な文書であると断罪し、その無効を宣布。

## 2 月

1日 ▶人民軍創建26周年記念「一当百賞」体育競技大会開幕(於平壤)。

▶外交部スポークスマン、韓日間の大陸棚協定を糾弾し、その無効を宣言する声明発表。

5日 ▶政府貿易代表団(団長キム・ソクジン貿易部副部長)インド訪問に出発(バングラデシュ経由3月8日)。

▶「労働新聞」論説「偉大な首領が抗日革命闘争の時期に創始した軍事思想」。

6日 ▶人民軍創建26周年記念映画上映週間全国各地で始まる。上映映画は「血の海」「1自衛団員の運命」「花を売る乙女」「遊撃隊5兄弟」「戦士の誓い」「1看護婦の物語」など。(～11日)。

7日 ▶人民軍創建26周年記念中央報告大会開催(於平壤万寿台議事堂)——李勇武上将報告「統一を望まない朴正熙一味の民族分裂政策のため、こんにちわが人民は民族の永久分裂かさもなくば統一かという重大な難局にぶつかっている」とのべ、朴一味の「不可侵条約」提案を糾弾。「売国反民族の魂が骨のずいまでしみこんでいる分裂主義者とはいかなる妥協もできず、ただ闘争を通してのみ祖国の自主的統一を実現することができる」と指摘。「敵のいかなる侵攻をも一撃のもとに掃討する万端の準備態勢をととのえている」ことを強調した。

8日 ▶金主席、チェ・ミウン同志所属人民軍区分隊を訪問、軍26周年記念の祝日を祝う。

▶作家同盟中央委員会、韓国における文学者、知識人の逮捕拘禁を糾弾する声明発表。

▶党・政府の幹部をはじめ各界代表、将兵、烈士家族、青年学生ら人民軍烈士塔に花輪と花束を献上。

10日 ▶朝鮮、ロスタリカ間大使級外交関係樹立(於ニ

ューヨーク)。

▶アメリカSR-71高速度高空偵察機軍事境界線にそって東西の上空を横断しスパイと敵対行為を強行。

11日 ▶朝鮮労働党中央委第5期第8回総会開催(～13日)——第1議案「すべての力を社会主義大建設事業に総動員することについて」(金日成報告)、第2議案「税金を完全に廃止し、工業商品価格を大幅に下げることについて」(李根模報告)、第1議案に関し全党員に党中央委員会の手紙を送ることを決定。手紙は6カ年計画以降の10大建設目標を新たに提起し、さらに集中すべき5大戦線中第一次的なものとして「基本建設戦線」を「せん滅戦」「電撃戦」の方法で促進することを訴えた。

13日 ▶朝鮮中央通信、南朝鮮いたるところに「4.15金日成主義研究サークル」「偉大なチュチェ思想研究会」「金日成主席革命歴史研究会」などの学習サークルが組織されていると報道。

14日 ▶「労働新聞」社説、「偉大な首領の呼びかけと党中央のアピールにしたがって全党、全国、全人民が社会主義建設に総動員しよう」。

▶祖国統一民主主義戦線中央委員会第60回会議開催(於平壤)——「南朝鮮の民主人士と青年学生に対する朴正熙かいらい一味のファッション的暴圧蛮行に反対し、それを排撃することについて」の声明を採択。

15日 ▶朝鮮中央通信社声明、「南朝鮮好戦分子は南北共同声明の精神をふみにじて緊張を故意に激化させる無謀な挑発行動を直ちにうちきるべきである」——西海での武装スパイ船侵入および民防災訓練の展開を非難。

▶中央人民委員会、金英柱を政務院副総理に任命する政令公布。

▶キリスト教徒連盟中央委員会、仏教徒連盟中央委員会、天道教中央指導委員会の連合会議開催(於平壤)——南朝鮮における宗教人をふくめた愛国人士に対する弾圧を糾弾、「南朝鮮宗教人と海外朝鮮人宗教団体におくる手紙」「世界各国の宗教団体におくる手紙」を採択。

▶南スパイ船、西海長山岬西北方北緯38度14分、東経124度28分の海上に侵入、海軍艦船の自衛的措置により犯罪的企らみを粉碎。

▶「労働新聞」社説「全党と全人民が総動員して社会主義建設の5大戦線で勝利の旗をひるがえそう」。

16日 ▶柳章植南北調節委副委員長、午前10時と午後8時の2回にわたり、ソウル側張基栄副委員長に回答電話文を送る(2月15日付南側電話文への回答)。

▶祖国統一民主主義戦線中央委員会、西海領海へのスパイ船侵入を糾弾する声明発表。

17日 ▶「労働新聞」社説、「首領が示した雄大な十大経済建設目標は全人民を新たな英雄的闘争と勝利へ呼んで

いる」

18日 ▶党中央委員会と政府、張吉富女史の逝去にかんする訃告発表。(同女史は夫と子女をみな革命闘争にささげ、みずから甲山地域で祖国光復・婦人会会員として抗日闘争に参加。抗日ゲリラ闘士馬東熙の母親。1972年に金日成勲章受領)。

▶アメリカSR-71高速度高空偵察機、軍事境界線上空に侵入し、スパイ・敵対行為を働いた。

▶朝鮮・インド間貿易支払協定、1974年度商品流通議定書調印(於ニューデリー)。

19日 ▶金主席ら党・政府首脳、張吉富女史の霊前に弔問。

▶「労働新聞」社説、「『速度戦』の革命的旗を高くかかげ社会主義・大建設闘争を最大限に促そう」

▶金日成の労作「わが国における社会主義農村問題に関するテーゼ」10周年記念全国科学理論討論会開催(於平壤万寿台議事堂)

20日 ▶張吉富女史国葬挙行——党中央委、中央人民委、政務院は共同署名による「哀悼の辞」で「首領金日成同志に限りなく忠実であった」女史を哀悼。

21日 ▶朝鮮中央通信、内海侵入スパイ船「33スウォン」号船長、パク・ジョンジュの自白書を発表。

▶赤十字会中央委員会、南朝鮮赤十字社がスパイ船を漁船だといつわり、「漁船と漁民」の「返還と送還」を提起したのは、南朝鮮ファシスト一味の謀略策動への加担であると糾弾する声明発表。

▶「労働新聞」社説、首領のよびかけにこたえて基本建設戦線に火力を集中することをよびかける。

22日 ▶崔賢人民武力部長、ソ連軍創建56周年に際しソ連グレチコ国防相に祝電を送る。

▶訪朝中の朝日輸出入商社代表団と朝鮮石材株式会社代表団を歓迎する平壤市大集集会開催(於平壤、牡丹峰劇場)。

▶朝鮮中央通信、日本軍国主義が南朝鮮に軍事分野でも再侵略策動を行っていると報道——「対航空早期警報体系」「軍事情報交換体系」「軍需品供給体系」「軍事通信網体系」「軍団輸送体系」などがうちたてられ、日本はすでに数十機の飛行機と4500余台の軍用車輛類を提供した等と指摘。

▶金主席、ユーゴスラビア新聞「ウェチェルニェ・ノボスティ」責任主筆の質問に回答を与える(3月13日朝鮮中央通信報道)。

23日 ▶「労働新聞」社説、「偉大なチュチュ(主体)思想の革命的旗のもとに開かれる総連第10回全体大会を熱烈に祝う」

金主席、在日本朝鮮人総連合会第10回全体大会あて祝

賀文を送る。

▶「農村テーゼ」発表10周年記念中央報告大会開催(於平壤万寿台議事堂)——李根模副首相報告。

25日 ▶全国工業大会開催(於平壤体育館、～3月7日)——金日成主席臨席、延亨黙報告「偉大な首領金日成同志のよびかけと党中央のアピールにのっとり工業部門ですべての力を社会主義大建設事業に動員するために」

▶南北赤十字会談代表団接触(於板門店)——会談の再開について協議。

▶アメリカSR-71高速度高空偵察機(日本駐屯)軍事境界線上空に侵入、スパイ行為を働く。

26日 ▶金日成主席、工業商品の価格を下げることに関する中央人民委員会政令を公布——(1)工業商品の価格を平均30%引下げる、(2)工業商品の価格を部類別に次のように引下げる、織物類20～50%、メリヤス類30～35%、はきもの類16～33%、日用品類15～50%、(3)政務院は工業商品の価格を改めて正確に実行する対策を講ずる、(4)この政令は1974年3月1日から実施する。

▶第170次帰国船方景峰号清津着。

▶朝鮮中央通信、「33スウォン号」甲板長ベク・ホンソンの自白書を発表。

▶ザンビア共和国ベルノン・ジョンソン・ムワンガ外相一行訪朝(～28日)。

27日 ▶金主席、ザンビア外相一行と会見。

▶アメリカSR-71高速度高空偵察機、戦線東部1211高地をふくむ軍事境界線一帯の上空に侵入、スパイ行為を強行。

▶南北調節委副委員長第4回接触(於板門店)——西海「スパイ船」問題で論戦、北側は調節委改編問題に関し、調節委拡大提案に南側が賛成できなければ、並行して南北政治協商会議を構成することを提案。

28日 ▶金日成労作「社会主義経済のいくつかの理論的問題について」発表5周年記念全国社会科学討論会開催(於平壤)

▶三・一人民蜂起55周年平壤市記念会開催(於牡丹峯劇場)。

▶金日成演説「青少年を知徳体をかね備えた社会主義共産主義者に育てよう」発表1周年記念講演会開催(於平壤学生少年宮殿劇場)——リ・ヨンボク社労青中央委員長講演。

▶軍事停戦委員会第348回会議開催(於板門店)。

▶朝鮮・バングラデシュ間貿易・支払協定、1974年度商品流通議定書調印(於ダッカ)——朝鮮より工作機械、電気機械、各種化学製品、セメント、クリンカー、レンガ、鉄製日用品その他を納入、バングラデシュより麻袋、木綿、皮、紙類、絹糸、人絹その他を納入。

## 3 月

1日 ▶ユーゴスラビア共産主義諸同盟代表团（団長、グリゴロフ幹部会執行局員）訪朝（～3月8日）。

2日 ▶アルジェリア民主人民共和国、フェリ・ブーメジェン革命総議長一行、特別機で訪朝（～3月5日）、平壤市内は歓迎一色に飾られる。

▶ブーメジェン歓迎宴会（於万寿台議事堂）——金日成主席あいさつ、アラブ人民の闘争にかたい連帯を表明。

▶金日成・ブーメジェン会談開催（～3日）、康良煜、吳振宇、朴成哲、金英柱、許淡ら同席。

▶朝鮮労働党代表团とユーゴスラビア共産主義者同盟代表团との会談（於平壤、～3日）、朝鮮側出席者金東奎ら。

3日 ▶共同警備区域内で北側警備員の写真撮影に対するアメリカ軍兵士の妨害により、衝突事件起こる。現場で軍事停戦委警務官会議開催。

▶金主席、ブーメジェン議長と万寿台芸術団出演の革命歌劇「花を売る乙女」を観覧（平壤大劇場）。

4日 ▶ブーメジェン議長歓迎平壤市民大会開催（於平壤体育館）——金日成主席演説「自主性があるこそ民族の仕合わせと栄誉があり、自主性をもった民族であるこそ其の独立と繁栄をとげることができる」。

▶ブーメジェン議長の主催による宴会開催（於万寿台議事堂）——金主席あいさつ「朝鮮・アルジェリアの友好は帝国主義に反対し、自主、自立の道にすすむ三大陸人民の共通の念願を反映している偉大な友好である」

▶ブーメジェン議長に共和国英雄称号を授与、一行にも共和国各級勲章とメダルを授与。

5日 ▶朝鮮・アルジェリア間共同コミュニケ発表（於平壤）。

▶アルジェリアのブーメジェン議長一行、特別機で平壤を離れる。

▶軍事停戦委警務官会議開催（於板門店）——3月3日事件などにつき応酬。

6日 ▶政府文化代表团（団長チェ・ヨンゴン対外文化連絡委副委員長）キューバへ出発（～3月29日）。

▶ユーゴスラビア共産主義者同盟代表团歓迎平壤市民大会開催（於平壤大劇場）。

7日 ▶金日成主席、ユーゴスラビア共産主義者同盟代表团と会見。金東奎、全英男ら同席。

▶全国工業大会閉幕——金主席閉幕会議で綱領的演説「偉大な首領金日成同志にささげる誓いの手紙」を満場一致採択。

8日 ▶「労働新聞」社説、「祖国の統一問題を自主性の原則で解決するための綱領的指針」——金主席の3月4

日演説を解説。

▶アメリカ SR-71 高速度高空偵察機、軍事境界線北側地域上空に侵入、スパイと敵対行動を強行。

▶金主席、全国工業大会にさいしてひらかれた「三大革命展示館」を参観。

▶平壤各紙、第6回日韓民間合同経済委員会終了後、植村委員長が記者会見で行なった暴言（2日、日本を「内地」とよんだ）を糾弾。

▶ユーゴスラビア共産主義者同盟代表团空路帰途につく。

10日 ▶「労働新聞」社説「偉大な首領が全国工業大会でおこなった演説にのっとりすべての戦線で革命の太鼓を力強くうちならそう」、平壤各紙、同様社説をかかげる。

▶「労働新聞」社説、「6カ年計画の全高地に勝利の旗をいっそう早くなびかせるために総突撃しよう」。

11日 ▶第15次在日同胞団訪問団平壤着（9日に清津着）。

▶南北赤十字団体本会談代表团接触（於板門店）——北側暫定的措置を提案、①双方赤十字代表の接触に結着をつけ、短時日内に双方副団長を責任者とする予備的実務者会議をもち、②実務者会議で本会談議案に対する予備的討議と、73年11月28日付北側提案の討議を続行、③実務者会議に南中央情報部メンバーを参加させてはならず、④実務者会議は本会談再開まで行う。

12日 ▶アメリカ SR-71 高速度高空偵察機またも軍事境界線上空に2回侵入、東西を横断しながらスパイ行為を働いた。

▶最高人民会議代表团（団長林春秋中央人民委員会書記長）ソ連訪問に出発。（ユーゴスラビア訪問ののち29日帰国）。

▶ザンビア民族統一独立党代表团（団長ヘンリ・S・メベロ党中央委政策研究所長）平壤着。（～3月19日）

▶政府貿易代表团（団長ハン・スギル貿易部副部長）ドイツ民主共和国訪問に出発（～26日帰国）。

▶政府代表团（団長コン・ジンテ対外経済事業部副部長）ソ連訪問に出発（朝ソ経済文化協定25周年記念行事に参加）。

▶ソ連代表团（団長ウエ・ゲ・モロゾフ内閣国家対外経済連絡委副委員長）平壤着（～3月19日）。

▶軍事停戦委第422回秘書長会議開催（於板門店）——北側3月3日事件を追及し、1月7日から3月8日まで3500件にのぼる困連軍側の犯罪的な軍事騒動を暴露糾弾。

▶「労働新聞」社説、「偉大な首領の教えと党政策に対する絶対性の精神、無条件性の精神、これが大建設戦闘

勝利の決定的保証である」。

14日 ▶「労働新聞」社説、「党中央が提示した『速度戦』の旗を高く掲げて基本建設を速やかに促して大建設戦闘の進撃路を力づくに開こう」。

▶朝鮮・キューバ間1974～75年度文化交流計画書調印(於ハバナ)。

15日 ▶朝ソ経済・文化協定締結25周年平壤市記念集会開催(於牡丹峰劇場)。

16日 ▶「朝鮮中央通信」、最近南朝鮮当局が逮捕した「鬱陵島事件」の対象は、統一革命党慶尚北道委員会とその傘下の党組織メンバー30余人の革命家であり、愛国者であると伝えた「統一革命党の声」放送を紹介。

▶「労働新聞」社説、「党組織と活動家はあふればかりの青春の気迫で社会主義・大建設戦闘を指揮してゆこう」

▶朝鮮・ギニア(ビサウ)間大使館外交関係樹立に関する共同コミュニケ調印(於コナクリ)。

19日 ▶朝鮮・ポーランド間1974年度商品相互供給・支払に関する議定書調印(於平壤)。

▶「労働新聞」はじめ平壤各紙、朝ソ経済文化協力協定締結25周年を祝賀する論説を掲載。

20日 ▶最高人民会議第5期第3回会議開催(於万寿台議事堂、～25日)——議案①税金制度を完全に廃止することについて(李根模副首相報告)、②1973年度国家予算執行に関する決算と1974年度国家予算について(金敬連財政部長報告)、③朝鮮で緊張状態を解消し、祖国の自主的平和統一を促進するための前提をつくることについて(許淡副総理報告)。

▶「労働新聞」社説、「偉大な首領金日成同志がいだかせた貴重な政治生命をいっそう輝かせよう」

▶柳南北調節委副委員長、ソウル側張副委員長に、第5回接触をすみやかに促すことを促す電話通知文を送る。

21日 ▶最高人民会議第2日目、最高人民会議法令「税金制度を完全に廃止することについて」採択。——4月1日から実施。

22日 ▶ルドルフ・サニングル・オーストリア連邦経済会議所所長到着(～26日)。

23日 ▶朝鮮・ドイツ(東)間1974年度商品相互供給に関する議定書調印(於ベルリン)——朝鮮より非金属鉱物類、金属製品、軽工業製品などを供給、ドイツより機械製品、電気製品、化学製品などを供給。

25日 ▶最高人民会議第4日目、許淡副総理報告、アメリカとの平和協定締結を提案。同会議「アメリカ合衆国議会に送る手紙」を採択。会議閉幕。

▶政府代表団(団長、康良焜副主席)パキスタン訪問

に出発(～4月?日、イラン、ビルマを訪問し帰国)。

26日 ▶党・政府代表団(団長、金東奎党中央委政治委員、秘書)チェコスロバキア訪問に出発(～4月26日、チェコスロバキア、モーリタニア、ギニア、アルジェリアを歴訪して帰国)。

27日 ▶アメリカ SR-71 高速度高空偵察機、高城地域上空に侵入、西側に横断しながらスパイ行為。

▶「労働新聞」社説、「朝鮮の平和を強固にし自主統一の道をきり開く主動的で積極的な救国対策」——最高人民会議の平和条約提案を解説。

▶南北調節委副委員長間第5回接触(於板門店)——南側の背信行為を暴露・断罪し、北側の前回新提案を受け入れるよう促す。

28日 ▶外交部声明、南ベトナム共和臨時革命政府の声明(3月22日)を支持。

▶中国「人民日報」、評論員論評「朝鮮の自主的平和統一のための正しい提案」で北朝鮮の新提案を支持。

29日 ▶主席特使鄭準基副総理、スーダン訪問のため出発(～5月3日、ソマリア、タンザニア、マリ、カメルーンを歴訪帰国)。

30日 ▶朝鮮中央通信、ソ連「イズベスチヤ」紙の、最高人民会議提案支持を報道。

▶朝鮮ブルガリア間1973～74年度文化交流計画書に関する1974年度補充計画書調印(於ソフィア)。

▶「労働新聞」社説、「偉大な首領の政治的信任と深い配慮に高い政治的自覚と技術をもって忠誠で報いよう」

31日 ▶全国高等学校社労青委委員長および少年団委員長(約5000人)、「学びの千里の道」踏査行事を終えて忠誠の大会を開催(於平壤)。

## 4 月

1日 ▶軍事停戦委第349回会議開催(於板門店)——北側 SR-71 機の侵入(3月8, 12, 18, 27日)に抗議。

2日 ▶党・政府代表団のチェコスロバキア訪問に関する共同報道発表(於プラハ)。

▶アフリカ統一機構解放委代表団(団長、オマル・アルテ・ガリブ、ソマリア民主共和国外相)到着(～4日)。

3日 ▶南北赤十字会談代表第4回接触(於板門店)——南の「臨時会議」開催提案の不当性を暴露し、ソウルで恐怖の雰囲気はなくなすか、でなければ平壤で開くべきであると主張。

4日 ▶金日成主席、アフリカ統一機構解放委友好代表団一行と会見、許淡副総理同席。

5日 ▶カンボジア民族統一戦線、カンボジア王国民族連合政府代表団(団長キュー・サムファン中央委政治局長、副首相兼国防相、人民武装勢力総司令官)一行特別

機で到着（～8日）。

▶金主席、カンボジア代表団と会見、呉振宇、朴成哲、許淡、金英男ら同席。

▶中央人民委と政務院、カンボジア代表団を招宴、呉振宇あいさつ。

▶「朝鮮中央通信」、金主席がイタリア共産党機関紙「ウニタ」が提起した質問に対する回答（1月29日）を報道。

▶「労働新聞」編集局論説、3日ソウルで起こった青年学生のはげしい大衆的示威闘争を「愛国的義挙」と高く評価。

▶外交部スポークスマン声明、カンボジア王国連合政府の声明（3月20日、26日）の声明を支持。

6日 ▶南朝鮮青年学生に対する朴正熙かいらい一味のファッションの弾圧を糾弾する平壤市大学連合糾弾大会開催（於牡丹峰青年公園野外劇場）。（同様集会8日以降各地で）。

7日 ▶政府代表団、カンボジア民族統一戦線、カンボジア王国民族連合政府代表団と会談、呉振宇党中委秘書参謀長、朴成哲副総理、金英男党中委国際部長ら列席。

▶金主席、カンボジア代表団に勲章を授与。

▶カンボジア代表団歓迎平壤市民大会開催（於平壤体育館）——朴成哲副総理あいさつ。

8日 ▶朝鮮・カンボジア政府代表団の共同声明調印（於平壤）。

▶カンボジア代表団帰途につく。

9日 ▶議会グループ代表団（団長、孫成弼議会グループ理事）列国議会同盟（IPU）114回会議に出席のため日本へ出発（～30日）。

▶金主席誕生62周年を祝う在日朝鮮人芸術団平壤着、金仲麟、朴成哲、徐哲、金英男、ホンソンナムら歓迎。

▶同じく在日朝鮮商工人祝賀団平壤着、崔載羽副総理ら歓迎（～5月16日）。

11日 ▶金主席、在日朝鮮公民の民主主義的民族教育の発展のために54回目の教育援助費と奨学金（5億9517万円）を在日朝鮮人中央教育会に送るよう朝鮮海外同胞援護委に委任（累計156億525万8533円）。

▶「労働新聞」はじめ平壤各紙、ラオス民族連立政治評議会、臨時民族連合政府の樹立を祝う社説掲載。

▶金主席参列のもと祖国解放戦争勝利記念館（平壤）開館式挙行——総建坪5万2000平方メートル、陳列室70余。

▶首領が創始した抗日遊撃隊式活動方法を実現するための全国党幹部養成機関科学討論会開催（於平壤）。

▶股票革命史跡記念館（主席の父金亨稷先生の活動地

域）開館式盛大に挙行（於黄海南道殷栗郡）。

▶朝鮮・チェコスロバキア間1974～75年度文化交流計画書調印（於プラハ）。

12日 ▶カンボジア国家元首、同民族統一戦線議長ノロドム・シアヌーク親王夫妻一行、特別列車で平壤着——平壤市歓迎一色にぬりつぶされる。金主席夫妻、康副主席、呉振宇、朴成哲、金英柱、崔載羽、黄長燁ら出迎え。

▶シアヌーク夫妻一行歓迎宴開催（於万寿台議事堂）——金主席演説「アメリカが朝鮮停戦協定の一方の調印者として朝鮮問題の平和的な調停に本当に関心をもつならば、当然わたしたちの平和愛好的な発起をうけ入れるべきであります。もし、アメリカがわが共和国と直接会談することを欲したいならば、わが国の内政に対する一切の干渉をうちきり、南朝鮮からその軍隊を撤収して朝鮮人同士自主的に統一問題を解決できる道を開けばいいのです」

▶在日朝鮮人芸術団、商工人祝賀団歓迎平壤市民大会開催（於平壤体育館）。

13日 ▶金主席夫妻、シアヌーク親王夫妻とともに映画鑑賞（記録映画「カンボジア国家元首ノロドム・シアヌーク親王のわが国における休息」、天然色劇映画「娘支配人」）。

14日 ▶金主席、在日朝鮮人芸術団、商工人祝賀団、第15次祖国訪問団と会見、崔庸健副主席、康良煜副主席、崔賢、呉振宇、金仲麟、朴成哲、金英柱、金聖愛ら同席。

▶金主席夫妻、シアヌーク親王夫妻らは朝鮮人芸術団の公演を観覧（於ポトン江辺に新設の人民文化宮殿）。

▶金主席、在日朝鮮人芸術団、商工人祝賀団歓迎夕食会を催す（於人民文化宮殿）——金主席綱領的な教示を与える。芸術団ペ・ビョンドラ団長演説。金主席を「人類の英才、民族の太陽」とたたえ、「総連組織と同胞大衆を徹底的に金日成主義化」することを厳かに誓う。

▶沙里院紡績工場建設完成、操業式挙行——40余種の高級布を生産し、高度に自動化された大総合紡績工場。

15日 ▶金主席誕生62周年記念「万景台賞」体育大会開幕（於平壤、～5月10日）。

▶金主席誕生62周年を迎え朝鮮少年団平壤市連合国体大会開催（於万景台）。

▶金主席、シアヌーク親王とともに万景台芸術団の音楽舞踊総合公演を観覧（於平壤大劇場）。

▶統一革命党中央委員会、「不世出の英雄であり、救世済民の太陽である革命の偉大な首領金同志にささげる祝賀文」を奏呈——「現時代のもっとも科学的な世界革命理論と戦略戦術」「（金日成主義は）人類思想史にもっとも輝かしい金字塔」「人類史上もっとも光輝さん然た



る金日成時代」等とたたえ、「祖国統一の唯一の求心点である首領」をいただいてたたかう幸福と栄光を謳い、「生きるもただ首領のために、死してもただ首領のためにたたかう」ことを誓う。

16日 ▶ブルンジ民族統一進歩党代表团(団長、ビジン・ダビ・ベルナルド全国執行書記)一行、平壤着(～23日)。

▶金主席の送った祝賀文を伝達する金策製鉄所、西頭水発電所、茂山鉱山の拡張工事参加者の連合集会現地で開催(於清津)。

▶ソ連文化代表团(団長、ドルディエフ文化相)平壤着。

17日 ▶金主席参席のもとシアヌーク親王歓迎南浦市大衆集会開催(於南浦市競技場)。

▶軍事停戦委警務官会議開催(於板門店)——北側、アメリカ軍兵士の挑発行為に抗議。

18日 ▶南朝鮮4月人民蜂起14周年平壤市記念報告会開催(於牡丹峰劇場)。

▶ブルンジ勤労者同盟歓迎平壤市勤労者集会開催(於学生少年宮殿)。

19日 ▶金主席特使として金英柱副総理、エジプト・アラブ訪問のため出発(～5月20日シリア、ルーマニア、ハンガリーを経て帰国)。

▶「労働新聞」社説、韓国の4.19人民蜂起14周年を記念。

20日 ▶朝鮮、ポーランド間1974～75年度文化交流計画書調印(於ワルシャワ)。

21日 ▶シアヌーク親王夫妻、金主席夫妻のために宴会開催(於万寿台議事堂)——金主席あいさつ「われわれは第三世界人民の側にしっかりとたっています」

22日 ▶シアヌーク親王夫妻一行、特別列車で平壤発。

▶「労働新聞」編集局論説、「レーニンの革命的業績は不滅である」——金主席の「偉大な革命思想」を礼讃。

23日 ▶政府代表团(団長、金敬連財政部長)インド訪問に出発(～5月?日、ネパール、フィンランドを経て帰国)。

▶南北調節委副委員長間の第6回接触(於板門店)——拡大改編問題討議を続行。

24日 ▶日朝友好促進議員連盟事務局長安宅常彦一行平壤着(～30日)。

▶人民革命軍創建42周年記念中央講演会開催(於平壤人民文化宮殿)、全国各地でも講演会。

25日 ▶人民革命軍創建節、人民武力部は駐朝各国大使館武官のための映画鑑賞会と宴会を、対外文化連絡委は各国外交人士を招き写真展と映画鑑賞会を開催。

▶「労働新聞」社説、「偉大な首領金日成同志がうちたてた栄えある革命伝統を代をついで輝かしく継承発展さ

せよう」

▶金日成元帥誕生62周年在日朝鮮商工団人祝賀団元山着。

26日 ▶中国労働者代表团(団長、張洪池党中央委員、大慶油田革命委副主任)平壤着。

▶軍事停戦委第423回秘書長会議開催(於板門店)——北側、アメリカ軍兵士の犯罪行為は3月9日から4月22日まで320余件であると抗議。

29日 ▶朝鮮・ルーマニア間1974～75年度文化交流計画書調印(於平壤)。

▶中央人民委、共和國功勳建設者称号を制定することに関する政令を発表。

▶南北赤十字会談代表団の第5回目接触(於板門店)——北側代表、南当局の野蛮な弾圧を糾弾。

30日 ▶ドイツ民主共和国外務省代表团(団長、エワルト・モルト副外相)平壤着。

▶「労働新聞」社説、「統一思想教育をいっそう強化して党員と勤労者を首領に限りなく忠実な革命戦士によりしっかり準備させよう」

## 5月

1日 ▶「労働新聞」社説、「偉大な首領金日成同志の指導にのっとり、チュチェの旗の下に前進する労働者階級の革命偉業は必勝不敗である」

3日 ▶日本社会党朝鮮問題特別委代表团(団長、米田東吾同委事務局長)平壤着(～9日)。

▶「労働新聞」編集局論説、「社会主義大建設における『速度戦』はすべての事業を突撃的に押し進める基本戦闘形式」

4日 ▶政府代表团(団長、許淡副総理、外交部長)ポーランド訪問のため特別機で平壤発(～6月8日、ウガンダ、ザイール、コンゴ、アルジェリアを経て帰国)。

▶「労働新聞」編集局論説、「マルクスの革命的業績はとこしえに輝くであろう」

▶労働党代表团、日本社会党朝特委代表团会談。

5日 ▶スウェーデン鉱山機械展開催(於平壤)。

▶中国労働者代表团歓迎平壤市勤労者集会開催(於平壤芸術劇場)。

6日 ▶朝鮮・オーストラリア友好文化協会結成集会開催(於チョンリマ文化会館)。

7日 ▶ソ連「プラウダ」紙代表团(団長、イ・エ・ボロジェイキン副主筆)平壤着。

10日 ▶朝鮮・シエラレオネ間文化協力に関する協定締結(於フリータウン)。

▶「労働新聞」編集局論説、国連資源総会は第三世界人民の団結の成功を示威した会議であったと強調。

▶イエメン・アラブ共和国協商評議会代表团，平壤着（～15日）。

12日 ▶朝鮮・民主ドイツ政府間文化・科学協力協定実行のための1973～74年度事業計画書に対する74年度事業計画書調印（於平壤）。

13日 ▶セネガル共和国大統領，レオポルド・セダル・サンゴール夫妻一行特別機で平壤着（～16日）。

▶金主席，サンゴール大統領を歓迎する宴会開催（於万寿台議事堂）——金主席あいさつ「こんにちは第三世界諸国人民はわれわれの時代の偉大な革命勢力であって，人類史を前進させる大きな推進力となっている」。

▶イエメン・アラブ協商評議会代表团歓迎平壤市大衆集会開催（於牡丹峰劇場）。

14日 ▶金主席，サンゴール大統領と会談。

▶軍事停戦委第350回会議（於板門店）。

▶朝鮮・アルジェリア政府間，科学技術協力協定調印（於アルジェ）。

15日 ▶ネパール王国と大使館外交関係樹立の報道発表。

▶アジア・アフリカ連帯委員会，「パレスチナ人民の闘争を支持する週間」設定（1974年5月15～21日）。

▶朝鮮，イラク間1974～75年度文化交流計画書調印（於バグダット）。

▶サンゴール大統領歓迎南浦市民大会開催（於南浦市競技場）。

16日 ▶朝鮮・セネガル間共同コミュニケ発表。

▶朝鮮・セネガル間経済技術協力協定，貿易協定，文化協力に関する協定調印（於平壤）。

▶サンゴール大統領一行，特別機で帰途につく。

17日 ▶パレスチナ人民の闘争を支持する平壤市大衆集会開催（於チョンリマ文化会館）。

▶「世界人民との連帯朝鮮委員会」結成集会開催（於平壤）。

18日 ▶金主席，在日同胞子女に送る第65回教育援助費・奨学金（6億142万5000円）を海外同胞援護委に委任送付（累計162億668万3533円）。

▶教育援助費，奨学金送付に感謝する在日朝鮮人代表团平壤着（～7月30日）。

▶朝鮮・ガイアナ協同共和国間外交関係樹立に関する共同コミュニケ調印（於ジョージタウン）。

21日 ▶党・政府代表团（団長，金錫基教育委員長）スーダン訪問のため平壤発（～6月7日）。

22日 ▶南北赤十字会談代表团第6回接触（於板門店）——双方代表团副団長を責任者とする実務会議をひらくことについて合意。

▶茂山地区戦闘勝利35周年記念中央講演会開催（於人

民文化宮殿）。

24日 ▶「労働新聞」社説，「偉大な首領の不滅のチュチュエ思想の旗のもとに勝利の一路をあゆんできた総聯の輝かしい道のり」，在日朝鮮総聯結成19周年を祝賀。

▶朝鮮中央通信，茂山鉦山拡張工事（精鉦生産能力を550トンに向上させる第2段階工事）を1年以上くり上げ年内に達成するために速度戦，電撃戦を展開中と報道。

25日 ▶「労働新聞」社説，「全社会を偉大なチュチュエ思想で徹底的に一色化しよう」。

▶朝鮮・スーダン友好週間（～5月31日）を設定（対外文化連絡委，朝・ス友好協会）。

▶スーダン社会主義連合代表团（団長同連合奉仕開発委モハメド・ハシム・アワド書記長）平壤着（～31日）。

▶党代表团（団長，楊亨燮政治委員）ユーゴスラビア共産主義者同盟第10回大会参加のため特別機で平壤発（～6月6日）。

26日 ▶スーダン5月革命勝利5周年記念大衆集会開催（於人民文化宮殿）。

27日 ▶中国人民解放軍友好参観団（団長，李達副総参謀長）平壤着，人民武力部招宴。

▶金主席，来朝中のダオメー教育代表团（団長，ビンセント・ゲゾジョ教育・文化・青年・体育相）と会見。

28日 ▶コンゴ人民共和国軍事代表团（団長，チャ・カバラ・ビクトル人民軍総参謀長）平壤着（～6月4日），人民武力部招宴。

29日 ▶万国郵便連合第17回大会（於スイス，ローザンヌ，5月22日～），共和国の加盟を満場一致承認。

30日 ▶「労働新聞」社説，「革命教育，階級教育を強化して党員と勤労者を首領に限りなく忠実な革命戦士にいつそう徹底的に準備させよう」

▶金主席，スーダン社会主義連合代表团と会見。

31日 ▶外交部スポークスマン声明，南朝鮮におけるアメリカ軍の武力増強を糾弾。タイから高性能F-4ファントム戦闘爆撃機大隊を導入。

▶「労働新聞」編集局論説，「南朝鮮学生と愛国者を集団処刑しようとするファッショ死刑執行吏の陰謀を粉碎しよう」

## 6月

1日 ▶金主席，コンゴ人民共和国革命代表团と会見。

▶南朝鮮かいらい一味のファッショの弾圧を糾弾する平壤市青年学生弾劾大会開催（於牡丹峰青年公園野外劇場）——2万余人参加，「南朝鮮の青年，学生と人民におくるアピール」採択。

▶金主席，在日朝鮮人代表团ならびに在日本朝鮮民主女性同盟代表团と会見。

▶コンゴ軍事代表団歓迎平壤市と同市駐屯部隊大衆集会開催(於人民文化宮殿)。

2日▶金主席、ペルー「エクスプレス」紙主筆エフライン・ルイス・カロール夫妻と会見。

▶金主席がスーダン政府機関紙「アル・サハファ」責任主筆の質問に与えた回答(4月25日付)をスーダンで全文発表。

3日▶大衆団体、南朝鮮の愛国的青年学生と人民に対する朴正熙軍事ゴロツキどもの血の弾圧蛮行を糾弾する連合声明発表。

4日▶ブルガリア政府代表団(団長、ベネリン・コーツェフ副首相、党政治局員候補)平壤着(～11日)。

▶ノルウェー社会主義人民党代表団(ステイン・オンハイ委員長)平壤着(～14日)。

▶イエメン人民民主共和国外務省儀典局長、サリフ・アブドラフ・ビン・アジェン夫妻平壤着。

▶普天堡戦争37周年を記念し、人民武力部、西江道などで多彩な行事を開催。

5日▶労働党代表団、ノルウェー社会主義人民党代表団と会談。

▶ブルガリア商品展覧会開催(於平壤、～15日)。

▶朝・ソ1974年度通商議定書調印(於モスクワ)。

6日▶中央人民委員会、在日朝鮮中央芸術団に金日成勲章を授与する政令を発表。

▶金主席、在日朝鮮人文学芸術部門活動家に人民芸術家、人民俳優、功勳芸術家、功勳俳優の称号を授与することに関する中央人民委政令を公布(7日に授与式)。

▶金主席、咸鏡南道の党組織、人民経済部門の活動を現地指導(～12日)。

▶ハンガリー政府代表団(団長、ボルバンディ・ヤノシュ副首相)平壤着(～10日)。

▶「金日成少年栄誉賞」授与式開催(於平壤学生少年宮殿劇場)。

7日▶朝鮮・ハンガリー間経済・科学技術協議会開催(於平壤、～9日)。

▶金主席、ブルガリア政府代表団と会見。

▶軍事停戦委第351回会議開催(於板門店)。

8日▶金主席、ノルウェー社会主義人民党代表団と会見。

9日▶軍事代表団(団長、呉振宇人民軍総参謀長)エジプト・アラブ共和国訪問のため平壤発(シリアをも訪問のち27日帰国)。

10日▶朝・ソ1974～75年度文化交流計画書調印(於モスクワ)。

▶「民主朝鮮」論説、「自主性を擁護し真の民族的独立と繁栄のために力強くたたかおう」

11日▶第16次在日同胞祖国訪問団平壤着(～7月30日)。

13日▶すべての郡で田植えを終える。

▶「労働新聞」社説、「全社会を偉大な主体思想で一色化する活動を促し、みなが革命の主人としての態度で生き働くようにしよう」

▶金主席、咸鏡北道の活動を現地指導(～22日)。

14日▶金主席、中国人民解放軍友好参観団と会見。

▶朝鮮中央通信、国際法制計量機構に最近加盟と報道。

15日▶「労働新聞」論評、日本の「出入国法」でっぴあげ策動を非難。

17日▶全国幼稚園児の放送芸術祝典総合公演開催(於平壤学生少年宮殿劇場)。

18日▶第16次在日同胞祖国訪問団歓迎平壤市大衆集会開催(於人民文化宮殿)。

20日「労働新聞」社説、「朝鮮の千里馬は新しい気概、新しい気迫でかける。みなこそって『速度戦』の旗を高くかかげて千里馬の大進軍を促そう」。

▶朝鮮中央通信報道、軽工業、採取工業、水産業の工場、事業所上半期計画をぞくぞく達成。

21日▶「労働新聞」論説、第11回アフリカ統一機構国家・政府首脳会議(6月12～16日、於ソマリア、モガジシオ)の成果を祝う。

22日▶「労働新聞」社説、「日本軍国主義者の侵略的野望と再侵略策動を粉碎するためだんこたたかおう」、ほか平壤各紙「韓日協定」締結9周年にさいしゅうに社説を掲載。

23日▶第171次帰国船万景峰号清津着。

▶「労働新聞」社説、「民族の団結した力で分裂を防ぎ統一の活路を開こう」(金主席演説1周年)。

24日▶朝鮮・ラオス王国大使館外交関係樹立の共同コミュニケーション調印(於ビエンチャン)。

▶「反米闘争デー」にちなみ、平壤市内で大衆大会とデモ——大会で李勇武上將演説、「南朝鮮人民に送るアピール」採択。大会会場金日成広場は20余万の群衆で埋まる。

25日▶平壤各紙、「反米闘争デー」と「南朝鮮からアメリカ帝国主義侵略軍を撤退させるための反米共同闘争月間」を迎えて社説を掲載。

▶大衆団体、共同声明を発表。

▶フィンランド共産党代表団(団長、アマルネ・サマリネン委員長)平壤着。

▶党代表団(団長、リム・ヒョング中央委候補)タンザニア訪問のため平壤発。

▶家禽総局傘下の各地家禽業戦士ら計画を108パーセ

ントに超過遂行。

26日 ▶赤十字中央委、南朝鮮赤十字社の活動を非難して声明。

▶政府貿易代表団（団長、金ソクジン貿易部副部長）パキスタン訪問のため平壤発（スリランカを経て7月23日帰国）。

▶労働党代表団、フィンランド共産党代表団と会談（朝鮮側、金東奎、鄭準基ら）。

27日 ▶金主席、在日朝鮮人芸術団出演の革命歌劇「金剛山の歌」を観覧、同団員一行と会見。

28日 ▶人民軍艦艇、東海水源端東方の海上に不法侵入した韓国艦一隻を撃沈。さらに長岷台端上空に侵入した韓国側戦闘機数機を撃退。

▶南北調節委副委員長第7回目の接触（於板門店）。

▶軍事代表団（団長、張正桓人民武力部副部長）タンザニア訪問のため平壤出発。

▶貿易銀行、ルーマニア貿易銀行とのあいだに二つの支払協定締結（於平壤）。

▶第3次国連海洋法会議、キム・グクフン代表団長演説。

29日 ▶金主席、フィンランド共産党代表団と会見。

30日 ▶朝鮮中央通信、平壤一沙里院間の鉄道電化工事（4月開始）の進捗を報道。

▶朝鮮中央通信、各地の農業労働者が反米共同闘争月間にさいし、「復讐の決意集会」をもちこの期間を「除草戦闘強行軍」期間に定めたことを報道。

▶外交部スポークスマン声明、アメリカのさしがねによる南ベトナムかいらい政府のバリ協定じゅうりんを暴露糾弾。

## 7 月

1日 ▶朝鮮・パキスタン間1974～75年度通商協定調印（於イスラマバード）。

▶朝鮮中央通信社声明、6月28日の韓国艦船の領海侵入を糾弾。

▶軍事停戦委第352回会議開催（於板門店）——6.28事件に抗議。

2日 ▶政務院、アルゼンチンのペロン大統領死去（7月1日）にあたり、哀悼の意を表し、7月3日を全国哀悼の日とする政令採択。

▶メキシコ共産党代表団（団長、ヘラルド・ウンスエタ中央執行委員）平壤着（～16日）。

▶ノルウェー共産党代表団（団長、クヌチェン副委員長）平壤着。

3日 ▶「労働新聞」編集局論説、「統一か分裂か」（7.4声明発表2周年）。

▶南北共同声明を守るための平壤市大衆大会開催（於人民文化宮殿）、楊亨燮演説、弾劾文採択。

4日 ▶金英柱南北調節委員長（平壤側）、7.4声明2周年にさいし声明を発表。

▶海岸警備船、日本漁船「こうよう丸」「えいしん丸」を連行（謝罪したため5日に釈放）。

▶平壤各紙、南北共同声明発表2周年にさいし社説を掲載。

▶崔載羽副総理、来訪中のイギリス・ナショナル・ウエストミンスター銀行団一行（団長、サンドン副理事長6月28日～）と会見。

▶金主席、日本から帰国した愛國的商工人15人を国家表彰。

5日 ▶朝鮮・ヨルダン間に大使級外交関係樹立の共同コミュニケ調印（於ダマスカス）。

6日 ▶朝鮮中央通信、最近日本が潜入させたスパイ（キム・ウオングン、キム・デオブ）を摘発したと報道。

▶平壤各紙、朝ソ友好・協力・相互援助条約13周年にさいし記念論説。

▶インドネシア政府代表団（団長、アダム・マリク外相）平壤着（～10日）。

7日 ▶政府代表団、インドネシア政府代表団と会談。

8日 ▶金亨稷先生（金主席父親）生誕80周年記念中央討論会開催（於人民文化宮殿）。

9日 ▶金主席、インドネシア政府代表団と会見。

▶政府代表団（団長、金ハクソブ通信副部長）イラク訪問のため出発（～26日）。

▶ギリシア共産党（国内）代表団、平壤着。

10日 ▶第1回南北赤十字実務会議開催（於板門店）——北側5原則を提起。

▶金亨稷先生生誕80周年で烽火革命史跡銅像に党・政府幹部花輪を奉献。労働者ら忠誠の誓いの集い。

▶金亨稷先生生誕80周年中央講演報告会開催（於人民文化宮殿）——鄭準基副総理報告。全国各地で講演報告会。

▶労働党代表団、ギリシア共産党（国内）代表団と会談。

11日 ▶平壤各紙、朝中友好協力・相互援助条約締結13周年を記念して論説を掲載。

▶金主席、ノルウェー共産党代表団と会談。

▶民主法律家協会、韓国当局の民青学連事件に対する弾圧を非難する声明発表。

12日 ▶朝鮮・ペルー間貿易代表部設置協定調印（於平壤）。

▶社会主義少年レスリング大会開催（～15日）——民主ドイツ、ルーマニア、モンゴル、ブルガリア、ハンガリ

一、チェコスロバキア、キューバ、ポーランド、ソ連、朝鮮参加。

13日 ▶南朝鮮青年学生と人民に対する殺人鬼朴正熙一味の極悪非道なファッショの弾圧を糾弾する平壤市弾劾大会開催(於人民文化宮殿)。

15日 ▶金英柱副総理、来訪中の世界保健機構代表団(団長、パブロフ副事務総長)と会見。

▶キリスト教徒連盟中央委、民青学連事件弾圧を糾弾する声明発表。

▶病気治療のためルーマニア滞在中の金一総理ら、チャウシェスク大統領を訪問。同行した楊亨燮党政治委員金日成主席の親書を伝達。

16日 ▶政府代表団(団長、崔載羽副総理)朝ソ経済・科学技術協議委第11回会議参加のためソ連に向け平壤発(～23日)。

▶祖国統一民主主義戦線代表団(団長、林春秋党中央委員・中央人民委書記長)ポーランド訪問のため平壤発(～30日)。

▶チリ社会党代表団(団長、カルロス・アルタミラノ・オレゴ書記長)平壤着(～23日)。

▶朝鮮・スリランカ間1974～75年度通商協定調印(於コロンボ)——朝鮮は機械・電動機・各種鉄鋼・合金鋼材・その他商品を、スリランカはゴム・グリセリン・タイヤチューブ・ゴム製品・その他商品を輸出。

17日 ▶「労働新聞」社説、「人権と人間の良心をふみにじり、愛国者を集団虐殺しようとするファシスト一味の蛮行を阻止しよう」。

▶金一総理、ルーマニアで療養を終え帰国。

▶ビルマ社会主義計画党代表団(団長、タウン・ダン同党中央執行委員、国家評議会委員、人民軍空軍司令官)平壤着。

▶インドネシア政府貿易代表団(団長、J・ムスキタ商務省貿易総局長)平壤着(～23日)。

18日 ▶民主法律家協会、「全世界の法律家におくるアピール」発表——南朝鮮の愛国的青年学生と人民の闘争に対する連帯をよびかける。

19日 ▶金主席、チリ社会党代表団と会見。

▶大衆団体共同で「全世界人民に送るアピール」発表——南朝鮮の愛国者たちを救う闘争をよびかける。

20日 ▶各宗教団体、世界各国の宗教団体と宗教者におくるアピール発表。

▶朝鮮中央通信、朝鮮・パキスタン航空会社間に航空協定締結(於カラチ)と報道。

21日 ▶在日本朝鮮青年芸術体育代表祖國訪問団万景峰号で元山着。

▶金主席、来訪中のキリル・コーセフ・ブルガリア人

民軍総政治局長と会見。

▶第12回全国民族体育競技大会開催(於開城市競技場、～25日)。

22日 ▶日本労組代表団(団長、岩井章総評顧問)平壤着(～30日)。

▶金主席、来訪中のフェリド・ジョプラン・レバノン社会進歩党副委員長、レバノン・朝鮮連帯委員会委員長と会見。

23日 ▶モンゴル人民革命党活動家代表団(団長、バ・サンジャブ・ウランバートル市委員会書記)平壤着。

24日 ▶第2回南北赤十字実務会議開催(於板門店)——北側、共同声明採択を提案。

25日 ▶朴一味のファッショ弾圧を糾弾する平壤市青年学生弾劾大会(於牡丹峰青年公園野外劇場)、2万余名結集。

26日 ▶イギリス、パークレイズ国際銀行代表団(団長、ジョン・トレーシー香港代表部代表)平壤着。

27日 ▶「労働新聞」社説、「アメリカ帝国主義の侵略と干渉策動を阻止破綻させ、祖国の自主的平和統一を実現しよう」

28日 ▶「善天堡ののろし賞」体育競技大会開幕(於牡丹峰競技場、～8月22日)。

▶「労働新聞」社説、「偉大な首領が明らかにした農村テーゼの技術革命課題を遂行するうえでかちとった偉大な勝利」——7万～8万台のトラクター供給課題を成就した。

29日 ▶中央人民委、在日本朝鮮体育人7名に共和国勲功体育人称号を授与する政令発表。

30日 ▶ルーマニア・ゲオルゲ・マコベスク外相平壤着(～8月4日)。

31日 ▶朝鮮・オーストラリア間外交関係樹立に関するコミュニケ調印(於ジャカルタ)。

## 8月

2日 ▶「労働新聞」編集局論説、「首領に対する忠誠心は共産主義革命家のもっとも基本的な品性である」

▶朝鮮・ベトナム民主共和国間1974～75年度文化交流計画調印(於平壤)。

3日 ▶金主席、ルーマニア外相と会見。

▶平壤各紙、日本木村外相の参議院外務委員会発言を糾弾する論評掲載。

4日 ▶社会主義国青少年友好国際体操競技大会開幕(於平壤、～6日)。

5日 ▶金主席、ビルマ社会主義計画党代表団と会見。

6日 ▶朝鮮統一民主主義戦線中央委第61回拡大会議開催、「南朝鮮人民と各政党、大衆団体、すべての海外僑

胞に送るアピール」採択——民族あげての闘争で民族の運命をきり開くための大民族会議を今年中に開こうとよびかける。

▶「労働新聞」社説、「統一か、分裂か、民族の力を合わせて分裂を防ぎ統一をとげよう」

▶ユーゴスラビア共産主義者同盟中央委幹部会執行局員ドウサン・ポボビッチ夫妻休養のため平壤に到着。

7日▶ブルガリア政府代表団(団長、ペンチョ・コウバジンスキ副首相)平壤着(～13日)。

8日▶日本自由民主党アジア・アフリカ問題研究会長宇都宮徳馬一行平壤着(～13日)。

9日▶金主席、宇都宮議員一行と会見。

▶スイス連合銀行代表団(団長、バダー同銀行国際局アジア地域副課長)平壤着。

11日▶金主席、ブルガリア政府代表団長と会見。

12日▶「労働新聞」論評、日本木村外相の「毎日新聞」記者との会見談話を糾弾。

▶朝鮮・ブルガリア間経済・科学技術協議会第6回会議議定書調印(於平壤)。

▶軍事停戦委第353回会議開催(於板門店)。

13日▶世界人口会議参加共和国代表団(ハン・ホンソブ保健部副部長)、国連貿易開発会議理事会参加代表団平壤発。

14日▶金主席、金一総理、解放29周年にあたりソ連の党・政府指導者と祝電交換。

15日▶「労働新聞」社説、「朝鮮はひとつ、全民族的闘争で分裂を防ぎ統一偉業をなしとげよう」

▶赤道ギニア共和国党・政府代表団(団長、ミゲル・エエゲ・ヌトム副大統領兼民族安全相)平壤着(～18日)。

▶平壤各紙、赤道ギニア党・政府代表団を歓迎する社説掲載。

16日▶「朝鮮中央通信」、韓国朴大統領狙撃事件を報道——「朴正熙逆賊は、悲鳴を上げながらのけぞって倒れ、足をばたつかせていたが、演壇の下にもぐりこんで醜い命をやっと保つ醜態を演じた。逆賊の妻陸英修は頭部に銃弾をあびたという」

▶第29回国連総会臨時議案とし「国連の旗のもとに南朝鮮に駐屯しているすべての外国軍を撤退させることについて」(32カ国共同発起)を登録。

17日▶金主席、赤道ギニア党・政府代表団と会見。

▶共和国、世界発明・著作所有権機構に加盟。

18日▶共和国政府が赤道ギニア共和国政府に経済技術援助を与える協定調印(於平壤)。

19日▶朝鮮中央通信社声明、韓国当局の大統領狙撃事件の「捜査全貌」(17日付)を糾弾。

▶金主席、来訪中のアラブ法律家同盟代表団と会見。

▶南「狙撃事件」と関連し記者会見(於平壤大同江会館)——チャ・ビョンオク外交部報道局副局長説明。

20日▶「労働新聞」評論員論評、「かいらいがふりまわす『狙撃事件』の『背後関係説』はもっとも悪らつで恥知らずな政治的謀略である」

▶政府・党代表団(団長、金英柱党政治委員、副総理)ルーマニア訪問のため平壤発(～29日)。

21日▶朝鮮・モンゴル間1974～75年度文化交流計画書調印(於平壤)。

22日▶「労働新聞」評論員論評、「日本軍国主義者の不純な動き」——田中首相の韓国弔問を批判。

26日▶南ベトナム共和代表団(団長、グエン・フー・ト民族解放戦線議長、共和臨時革命政府諮問協議会議長)平壤着(～30日)。

▶金主席、南ベトナム共和代表団と会見。

27日▶共和国代表団、南ベトナム共和代表団と会談(朝鮮側、康良焯副主席、崔載羽副総理ら)。

▶ルワンダ国家代表団(団長、ウンセカリジェ・アロイス国際協力相)平壤着。

28日▶第3回南北赤十字実務会議開催(於板門店)。

▶政府代表団、ルワンダ国家代表団と会談(朝鮮側許淡副総理ら)。

29日▶金主席、ルワンダ国家代表団と会見。

▶南ベトナム共和代表団歓迎平壤市民大会開催(於人民文化宮殿)。

30日▶朝鮮・ルワンダ政府間経済・技術的協力協定、文化協力協定調印(於平壤)。

▶朝鮮・南ベトナム共和間共同コミュニケ発表(於平壤)。

31日▶朝鮮中央通信、金主席がペルー朝鮮友好文化協会書記長の提起した質問に与えた回答(6月13日付)を報道。

▶政府代表団(団長、パン・テリユル貿易部副部長)ブルガリア、アルジェリア、イラク、オーストリア訪問のため平壤発(～10月8日)。

▶朝鮮中央通信社代表団(団長、キム・ソンゴル社長)中国訪問のため平壤発。

## 9月

1日▶金主席、パナマ「エル・パナマ・アメリカ」紙主筆、「マッチノ」紙主筆と会見。

▶「労働新聞」編集局論説、「南朝鮮かいらいの熱気をおびた『反共』茶番劇は戦争準備の計画的な謀略騒動」

2日▶金主席、チリ労働者農民人民統一行動運動党代表団(団長、ベガ同党副書記長)と会見。

▶金主席、国連駐在スーダン常任代表ラフマタラ・アブドラと会見。

▶朝鮮中央通信、9月初旬から平壤・ハバロフスク間に往復国際定期航路（朝鮮民間航空局機週2便、ソ連民間航空部機週1便）運営開始と報道。

3日 ▶ノルウェー社会民主党代表团（団長、ラグナル・クリスチャンセン中央執行委員）平壤着（～13日）。

▶共和国創建26周年在日朝鮮人祝賀団（団長、ソ・マンスル総聯組織局長）平壤着。

▶イラン国会代表团（団長、エマミ上院議長）平壤着（～10日）。

▶ソ連共産党活動家代表团（団長、ボジュール・モルグビア共産党第一書記）平壤着。

4日 ▶アルジェリア政府軍事代表团（団長、ベンムサ民族人民軍海軍司令官）平壤着（～10日）。

▶外交部声明、在日総連弾圧を日本に要求した朴正熙一味を糾弾。

▶柳章植南北調節委副委員長、ソウル側が8月21日予定の第8回副委員長接触を無期延期したことを糾弾する声明発表。

5日 ▶日本社会党代表团（団長、成田知己委員長）特別機で平壤着。盛大な歓迎（朴成哲、金東奎、徐哲、鄭準基、金英男ら出迎え）（～13日）。

▶労働党、ノルウェー社会民主党代表团間会談。

6日 ▶朝鮮・ニジェール間大使級外交関係樹立の共同コミュニケ調印

▶金主席、日本社会党代表团と会見、朴成哲、徐哲、金英男ら同席。

▶労働党、日本社会党代表团間会談。

▶党・政府代表团（団長、李勇武党政治委員、人民軍総政治局長）ブルガリア訪問のため平壤発（～17日）。

7日 ▶トーゴ共和国大統領エチエヌ・エヤデマ夫妻一行特別機で平壤着。盛大な歓迎（金日成主席夫妻ら出迎え）（～12日）。

▶エヤデマ大統領歓迎宴（於万寿台議事堂）——金主席あいさつ。

▶平壤各紙、エヤデマ大統領一行を歓迎する社説を掲載。

▶朝鮮中央通信、8月以降の肥料生産実績、昨年同期比窒素肥料1.2倍、リン肥料3倍の成果をあげたと報道。

8日 ▶金主席、在日朝鮮人祝賀団を接見。

▶金主席席下共和国創建26周年記念中央報告大会開催（於人民文化宮殿）——朴成哲副総理報告。

▶金主席、イラン国会代表团を接見。

▶金主席、アルジェリア政府軍事代表团を接見。

9日 ▶共和国創建26周年慶祝宴開催（於人民文化宮殿）

——金一総理演説。

▶金主席、エヤデマ大統領とともに慶祝マスケーム「チュチュの日ざし」（於南浦市競技場）を観覧。

10日 ▶エヤデマ大統領歓迎平壤市民大会開催（於平壤体育館）。

▶金主席、中国共産党活動家友好訪問団（団長、劉子厚党中央委員、河北省党第1書記）と会見。

▶金主席、ノルウェー社会民主党代表团と会見。

▶ウガンダ軍事代表团（オキディン連隊長）平壤着（～17日）。

11日 ▶金主席、日本社会党代表团の宿舎を訪問。

▶労働党、日本社会党代表团間第2回会談。

▶金主席、日本社会党代表团同行記者団を接見。

朝鮮、トーゴ間経済・技術協力協定調印（於平壤）。

▶日本社会党代表团歓迎平壤市民大会開催（於人民文化宮殿）。

▶金主席、エヤデマ大統領に国旗勲章第1級を授与。

▶エヤデマ大統領、金主席に「モノ大十字勲章」を授与。

12日 ▶労働党・日本社会党間の共同コミュニケ発表。

▶朝鮮・トーゴ間の共同コミュニケ調印。

▶軍事停戦委第354回会議開催（於板門店）。

13日 ▶金主席、パレスチナ解放組織代表团（団長、ハッサン政治顧問）を接見。

15日 ▶総連を弾圧しようとする朴一味と日本当局者の陰謀策動に反対する平壤市民大会開催（於平壤体育館）、2万余名参加——許貞淑祖國統一民主主義戦線中央委書記局長演説。

16日 ▶朝鮮中央通信、金主席がセネガル全国ジャーナリスト協会代表团が提起した質問に与えた回答（8月21日付）を報道。

▶朝鮮中央通信、最近朝鮮・イラン間文化協力協定が締結されたと報道。

▶国際原子力機構第18回総会（於ウィーン）、北朝鮮の加盟を無投票満場一致で可決。

17日 ▶ハンガリー社会主義労働党代表团（団長、シャンドール・ヨゼフ中央委員）平壤着。

▶ポーランド、ヤンチャブラ副外相一行平壤着。

▶フランス、ソサエテ・ジェネラル銀行代表团平壤着。

18日 ▶祖國統一民主主義戦線中央委第62回拡大会議開催（於平壤）——「総聯を破壊しようとする朴正熙かいらい一味と日本当局者の陰謀策動に反対することについて」を討議、声明を採択。

▶金主席、アルゼンチン記者代表团を接見。

21日 ▶モリタニア回教共和国モクトル・ウルド・ダ

ッダ大統領一行特別機で平壤着(～23日)。

▶金主席、ダッダ大統領会談(～22日)。

▶ダッダ大統領歓迎宴(於万寿台議事堂)。

▶南北調節委副委員長第8回目接触(於板門店)——北側は南側が6項目の措置を講ずるよう強く要求、①民族分裂路線を追及しない、②対米対日隷属化政策の放棄、③「反共」騒動、戦争準備策動の即時中止、④ファッション的暴行中止、民主主義的権利の保障、⑤「狙撃事件」関連の政治陰謀を直ちにやめる、⑥調節委改編問題に対する北側案を遅滞なく受け入れる。

▶セネガル国会代表团(団長、ムスタファ・トゥレ国会議会議長グループ委員長)平壤着。

22日▶ダッダ大統領歓迎平壤市民大会開催(於平壤体育館)。

▶ダッダ大統領とその一行に勳章授与。

23日▶外交部声明、「共和国と朝鮮人民は何人であろうと総連にみだりに手をだすのを決して許さないであろうことをいま一度厳かに警告する」

▶朝鮮、アルバニア間科学技術協力委員会第8回会議議定書調印(於平壤)。

24日▶金主席、在日本朝鮮青年芸術体育代表祖国訪問団、第2次在日本朝鮮教育活動家祖国訪問団、在日本朝鮮高級学校学生祖国訪問団を接見——綱領的な演説「わが国の情勢と在日本朝鮮青年同盟の任務について」

25日▶第4回南北赤十字実務会議開催(於板門店)——北側が、会談のための好ましい条件づくりをするよう要求。

26日▶金主席、セネガル国会代表团を接見。

27日▶議会グループ代表团(団長、洪起文最高人民会議常設会議副議長)、列国議会同盟第61回会議(於東京)参加のため平壤発(～10月19日)。

28日▶シリア・アラブ共和国ハフェス・アサド大統領を団長とする党政府代表团、特別機で平壤着(～10月24日)。

▶アサド大統領一行歓迎宴開催(於万寿台議事堂)。

29日▶朝鮮・シリア党政府代表团会談。

## 10月

1日▶シリア党・政府代表团歓迎平壤市民大会開催(於平壤体育館)——金主席演説「わが人民は、こんごとも帝国主義とユダヤ復古主義に反対し、新しい社会を建設するためにたたかう兄弟のシリア人民の側にしっかりとっているであろう」。

▶アサド大統領に共和国英雄称号、金星メダル、国旗勳章第一級を授与。

▶金主席にシリア最高勳章授与。

▶「労働新聞」社説、中華人民共和国創建25周年を祝賀。

▶フランス、クレビ・リオネ銀行代表クロード・ギザル平壤着。

2日▶金主席、訪問中の全アフリカ青年運動代表团を接見。

▶朝鮮・シリア間経済、技術協力に関する議定書調印。

▶「労働新聞」編集局論説、「南朝鮮の青年学生と人民は反ファッション民主化の聖なる闘争により勇敢に立ちあがれ」

4日▶朝鮮・シリア間共同コミュニケ発表(於平壤)。

▶政府経済代表团(団長、チョン・ソンナム対外経済事業部長)トーゴ訪問のため平壤発。

▶ラオス臨時民族連合政府経済代表团(団長ノット・ペトラシ経済・計画相)平壤着(～8日)。

5日▶「労働新聞」社説、「アメリカ帝国主義侵略軍は『国連軍』の帽子をとって南朝鮮から完全にでていくべきである」。

6日▶学生節12周年中央報告会開催(於平壤学生少年宮劇場)。

▶清津造船所で1万4000トン級大型貨物船「ワンジェサン」号進水。

7日▶朝鮮、ラオス臨時民族連合政府間に経済技術協力協定調印(於平壤)。

▶政府メモランダム「国連の旗のもとに南朝鮮に駐留しているすべての外国軍は完全に撤退すべきである」発表——第29回国連総会に朝鮮問題議案が上程されたのに関連して。

8日▶朝鮮中央通信、金主席がダオメー政府機関紙「ダオ・エクスプレス」社長と行なった談話(9月19日付)を発表。

▶日本の総評・中立労連代表团(団長、市川誠総評議長)平壤着(～15日)。

▶第4次在日同胞商工人祖国訪問団、平壤発帰途に。

9日▶金主席、エクアドル「ボルンタド」出版社社長と会見。

▶朝鮮労働党創建29周年記念中央報告会開催(於人民文化宮殿)、金東奎講演報告。

▶政府代表团(団長、崔載羽副総理)ルーマニア、ポーランド訪問のため平壤発(～23日)。

▶朝鮮、ジャマイカ間大使館外交関係樹立発効(ジュネーブで合意)。

10日▶2.8セメント工場の新大型焼成炉操業式挙行。

11日▶日本総評、中立労連代表团歓迎南浦市労働者野外大会開催(於南浦市競技場)、7万人参集。



▶社会主義国軍隊軍事第3種競技選手権大会開催（於平壤）、モンゴル、ブルガリア、キューバ、ソ連、朝鮮の5カ国参加（～13日）。

12日 ▶金主席、日本総評・中立労連代表団を接見。

▶金主席、ダオメー大統領府出版文献局長を接見。

14日 ▶総評・中立労連代表歓迎平壤市勤労者集会開催（於人民文化宮殿）。

▶朝鮮・キューバ放送間にラジオ・テレビ放送分野で協力することに関する議定書調印（於平壤）。

15日 ▶第2次在日朝鮮人商社代表団平壤着。

▶アルゼンチン国会代表団（団長、イタロ・ルデル上院外交委員長）平壤着（～18日）。

▶ヨントン貯水池竣工式挙行——黄海北道の2万余町歩の畑に水を送り、工業用水を保障する大記念碑的建造物。

▶エチエン・マナク中国駐在フランス大使平壤着。

17日 ▶「労働新聞」社説、「全党、全国が今年の計画を超過遂行する総突撃戦にこぞりたとう」

▶朝鮮中央通信現地特派員、平安北道リョンジョン郡リョンジン協同農場で、町歩あたり平均10トンを収穫、とくに千里馬第5作業班は5町歩で町歩あたり23.8トンの米を収穫する奇跡を創造したと報道。

▶金主席、アルゼンチン国会代表団を接見。

▶国連教育科学文化機構（ユネスコ）第18回総会パリで開催、共和国の加盟を満場一致決定。

▶アルゼンチン国会代表団歓迎平壤市大衆集会開催（於人民文化宮殿）。

▶朝鮮、ルーマニア科学院間に科学協力協定調印（於ブカレスト）。

18日 ▶金主席、ザイール共和国議会グループ代表団（団長、ルムンバ全国立法評議会第2副議長）を接見。

▶政府代表団（団長、金ハクソグ通信部長）ザンビア訪問のため平壤発（～11月19日）。

19日 ▶金主席、ザイール共和国大統領特使（エムボムボ大統領官房特別顧問）を接見。

21日 ▶金主席、インド国会代表団（団長、G.S. シロン下院議長）を接見。

▶「労働新聞」社説、「全社会を偉大な主体思想で一色化する偉業に合致するよう党を強化しその戦闘的威力をいっそう強めよう」

22日 ▶朝鮮中央通信、各地の協同農場かつてない大豊作と報道。

▶朝鮮、トーゴ間経済・技術協力協定調印（於ロメ）。

▶パキスタン人民党代表団（団長、アクタル上院議員）平壤着（～29日）。

23日 ▶朝鮮中央通信、金主席のパナマ記者代表団との

談話（9月1日付）を発表。

25日 ▶金主席に、新任ソ連大使クリウリン・グレフ・アレキサンドロビッチ信任状提出。

▶ノルウェー政府貿易代表団（団長、エイナル・マグスセン通商・造船相）平壤着（～29日）。

▶軍事停戦委第355回会議開催（於板門店）——北側アメリカの韓国への核兵器持ちこみ、核搭載航空母艦ミッドウェー寄港などに抗議。

26日 ▶金主席の委託により海外同胞援護委員会、教育援助費、奨学金6億9715万円（累計169億383万3533円）を在日朝鮮人中央教育会へ送る（今年4回目、22億5575万5000円に達する）。

▶金主席、パキスタン人民党代表団を接見。

▶南朝鮮言論人の闘争を支持し朴一味の言論弾圧を糾弾して平壤市記者・編集員大会開催（於人民文化宮殿）。

▶ユネスコ総会で共和国金錫基代表団長演説。

28日 ▶党・政府代表団（団長、康良煜副主席）、軍事代表団（団長、パン・チョルガブ海軍司令官）アルジェリア訪問のため平壤発（康はソ連に立ちより6日帰国）。

▶朝鮮、ベネズエラ間大使級外交関係樹立に関する共同コミュニケ調印（於カラカス）。

▶朝鮮・ノルウェー間貿易協定調印（於平壤）。

29日 ▶イギリス・ミッドランド銀行代表団（団長、シユミット国際局長）平壤着。

## 11月

1日 ▶アルジェリア党・政府代表団（団長、マサオウデン郵便・通信相）平壤着（～6日）。

2日 ▶政府通商代表団（団長、ハン・スギル貿易部副部長）ブルガリア、チェコスロバキア訪問のため平壤発。

3日 ▶アルジェリア革命開始20周年平壤市大衆集会開催（於人民文化宮殿）。

▶朝鮮、ユーゴスラビア間に科学技術協力協定と文化協力協定調印（於平壤）。

4日 ▶第172次帰国船清津港着。

▶金主席、アルジェリア党・政府代表団を接見。

5日 ▶第5回南北赤十字実務会議開催（於板門店）。

▶朝鮮・モンゴル間商品流通・支払いに関する議定書調印（於平壤）——朝鮮より各種機械製品・工具類・化学製品・繊維製品・日用品・その他の商品を、モンゴルより羊毛・加工皮類・その他の商品を輸出。

6日 ▶朝鮮・中国科学技術協力委第15回会議議定書調印（於北京）。

7日 ▶社会主義10月革命57周年平壤市記念集会開催（於牡丹峰劇場）。

▶平壤各紙、10月革命57周年を迎え論説を掲載。

8日 ▶祖国統一民主主義戦線中央委第63回拡大会議開催——許淡副総理・外交部長報告「わが民族の前にかもされた現難局を打開し、祖国の自主的平和統一を促進するために」、声明採択。

10日 ▶金主席、クエートのアル・カパス新聞社総局長を接見。

▶朝鮮・ブルガリア間1975年度商品相互供給・支払いに関する議定書調印(於ソフィア)——朝鮮より機械および設備・鋼材類、マグネシアクリンカー・その他商品、ブルガリアより機械および設備・化学製品類・医薬品・その他商品を供給。

14日 ▶朝鮮・ポーランド間1975年度商品相互供給・支払いに関する議定書調印(於ワルシャワ)——朝鮮より工作機械・工具類・マグネシアクリンカー・陶磁器製品・軽工業製品・その他商品を、ポーランドより各種機械設備・船舶機関・コークス・タイヤ・染料・その他商品を供給。

15日 ▶韓国軍、軍事境界線人民軍哨所に数百発の銃弾をあびせる軍事的挑発。

▶カンボジア王国民族連合政府経済・財政代表团(団長、イエン・サリ副首相特別顧問)平壤着(～21日)。

16日 ▶ハンガリー政府貿易代表团(団長トルドイ・イエネ貿易相次官)平壤着(～19日)。

▶朝鮮中央通信、金主席がペルーの「エクスプレス」紙主筆夫妻と行った談話(6月27日付)を発表。

18日 ▶イエメン人民民主共和国政府代表团(団長、サレム・アリ・ルバイ大統領評議会議長)平壤着(～22日)。

▶朝鮮・ハンガリー間1975年度商品流通・支払いに関する議定書調印(於平壤)。

19日 ▶金主席・ルバイ議長会談。

20日 ▶金主席、カンボジア民族連合政府経済財政代表团を接見。

21日 ▶「労働新聞」評論員論評、フォード米大統領の訪韓を糾弾。

22日 ▶朝鮮が民主イエメンに経済・技術的援助を提供することに関する協定調印(於平壤)。

▶イラン王弟、パーレビ親王(～12月1日)、イラン政府貿易代表团(団長、ガンナディアン商業省貿易総局長)平壤着。

23日 ▶外郊区スポークスマン声明、フォード大統領の訪韓を「戦争の旅」「侵略の旅」と糾弾。

▶金主席、パーレビ親王を接見。

▶政府経済代表团(団長、チョン・グァンウォン普通教育部副部長)ダオメー訪問のため平壤発。

24日 ▶労働党代表团(団長金東奎政治委員、秘書)ルーマニア訪問のため平壤発(～12月3日)。

▶党・政府代表团(団長、鄭準基政治委員候補・副総理)アルバニア訪問のため平壤発(～12月3日)。

25日 ▶朝鮮・アルジェリア間商品流通に関する議定書調印(於平壤)。

▶第29回国連総会第一委員会で、朝鮮問題討議開始、共和国李宗木代表団長演説。

26日 ▶軍事停戦委第356回会議開催(於板門店)——北側、「トンネル事件」は政治的謀略劇、「南からの北侵略威が現実的に存在している」と強調。

27日 ▶最高人民会議第5期第4回会議開催(於平壤、万寿台議事堂、～30日)——議案①敬愛する首領金日成同志が発表した「わが国における社会主義農村問題に関するテーゼ」実行の総括と今後の課題について(金一報告)、②朝鮮民主主義人民共和国副主席選挙について。

▶ザイール共和国大統領官房特別顧問モコロ・ワ・エムボム平壤着。

▶「労働新聞」社説、「歴史にかつてない大豊作、農村テーゼの偉大な勝利」

▶朝鮮、ボツワナ共和国間大使級外交関係樹立に合意。

28日 ▶朝鮮・イラン間貿易に関する議定書調印(於平壤)。

▶朝鮮・ポーランド科学院間1975～76年度科学協力に関する事業計画書調印(於平壤)。

29日 ▶「労働新聞」報道、「偉大な農村テーゼの世紀的大勝利、今年700万トンを上回る穀物を生産、6カ年計画の穀物高地を2年くりあげて立派に占領、全国的に稲町歩あたり平均5.9トンを生産して世界最高水準に到達、とうもろこし町歩あたり平均5トン」

▶第6回南北赤十字実務会議開催(於板門店)。

30日 ▶最高人民会議第5期第4回会議閉幕——第2議案に対する決定「『わが国における社会主義農村問題に関するテーゼ』が示した課題を短日内に完全に実現するために」を採択、第2議案について金主席の提議により金東奎政治委員・秘書を共和国副主席に選ぶ。

▶南北調節委双方スポークスマン接触(於板門店)——副委員長接触を当分中断して75年1月初めにもつこと、その間実務者同士ひんばんに会って協議することを提案。

▶イラン、パーレビ親王歓迎平壤市大衆集会開催(於人民文化宮殿)。

## 12月

1日 ▶カンボジア国家元首・民族統一戦線議長シアヌ

ーク親王夫妻一行特別列車で平壤着(～8日)。

2日 ▶シアヌーク親王夫妻歓迎宴会開催(於万寿台議事堂)。

3日 ▶アラブ社会主義同盟代表団(団長、モハメド、ハフェズ・ガーネム中央委第一書記)平壤着(～6日)。

5日 ▶金主席、アラブ社会主義同盟代表団を接見。

▶南北調節委共和国側スポークスマン、南側の誹謗中傷行為を糾弾する声明発表。

6日 ▶「労働新聞」社説、「テアンの事業体系の成功を十分發揮して6カ年計画の高地をくりあげ占領するための総進軍をいっそう促そう」

9日 ▶国連第一委、朝鮮問題の討議終了。社会主義第三世界諸国40カ国の共同決議案は賛成48、反対48で否決。

▶ザイル共和国モブツ・セセ・セコ夫妻特別機で平壤着(～16日)。

▶モブツ大統領歓迎宴会開催(於万寿台議事堂)。

10日 ▶金主席・モブツ大統領会談。

▶ニジュール共和国政府代表団(団長、ムムニ・ジュール・マコイエ・アダム外相)平壤着(～13日)。

11日 ▶金主席、ニジュール政府代表団を接見。

▶政府貿易代表団(団長、ハンスギル貿易部副部長)ベトナム民主共和国訪問のため平壤発。

12日 ▶朝鮮・オーストリア間外交関係樹立および外交代表交換に関する共同コミュニケ調印(於ウィーン)、この措置は12月17日から発効。

13日 ▶朝鮮・ニジュール間経済・技術的協力に関する協定調印(於平壤)。

14日 ▶金主席、モブツ大統領第2回会談。

▶南北調節委双方スポークスマン第2回接触(於板門店)——北側、南幹事委員中の中央情報部員の交替を要求。

15日 ▶モブツ大統領歓迎平壤市民大会開催(於平壤)——金主席演説、新興勢力諸国の統一戦線形成の必要性を主張。

▶モブツ大統領に国旗勲章第一級を授与。

▶金主席にザイル最高勲章を授与。

▶金主席、日本からの帰国同胞に勲章と贈物を授与——4名に共和国労働英雄称号と金メダルおよび国旗勲章第一級を、27名に国旗勲章第一級、20名に労働勲章、254名に国旗勲章第二級、100名に国旗勲章第三級、1862

名に功労メダルを授与。

16日 ▶平壤各紙、在日朝鮮公民の帰国実現15周年にさいし社説を掲載。

▶祖国平和統一委、朝鮮平和擁護全民族委、朝鮮アジア・アフリカ連帯委声明「われわれは、朝鮮で核戦争準備に熱をあげているアメリカ帝国主義者の重大な犯罪行為をこみあげる民族的怒りで断固糾弾する」

▶朝鮮・ザイル間文化協定、貿易協定それぞれ調印(於平壤)。

▶在日朝鮮公民の帰国実現15周年記念中央報告大会(於人民文化宮殿)——鄭準基副総理報告。

17日 ▶朝鮮・ザイル間共同コミュニケ発表。

▶タイ政府貿易代表団(団長、プラソン・スクム副商業相)平壤着(～20日)。

18日 ▶政府貿易代表団(団長、李テベク貿易部副部長)中国訪問のため平壤発。

19日 ▶南北調節委スポークスマン談話、南側の接触延期、幹事会議改編拒否を批判し、対話正常化を要求。

20日 ▶外交部スポークスマン声明、アメリカが多くの核弾頭と核兵器を軍事境界線付近に配置・貯蔵していることを糾弾。

▶朝鮮・スイス間大使級外交関係樹立および外交代表交換に関する共同コミュニケ調印(於ベルン)。

21日 ▶朝鮮・中国間1975年度商品交流に関する議定書調印(於北京)。

▶「労働新聞」論説、「レーニンの偉業に忠実な不屈のマルクス・レーニン主義者、国際共産主義運動の卓越した活動家イ・ウエ・スターリン」、スターリン生誕95周年を記念。

23日 ▶朝鮮・民主ベトナム間1975年度商品流通・支払協定調印。

24日 ▶石炭工業総局全体で1974年の石炭生産計画を完遂。

▶朝鮮・中国河川通信協力第14回会議合意書調印。

26日 ▶中央人民委、「国家、経済機関、企業所のすべての労働者、技術者、事務員に1カ月分の賃金にひとしい年末特別賞金を支給する政令」を公布——12月28日から30日の間に支給。

27日 ▶キューバ政府貿易代表団平壤着。

30日 ▶朝鮮・キューバ間1975年度通商議定書調印。